令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　44

事務事業名称		災害医療対策関係事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	2.災害時に、迅速・的確に対応できるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2011(H23)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	災害対策基本法、新型インフルエンザ等対策特別措置法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	災害発生時には迅速に適切な医療救護活動を、新型インフルエンザ等発生時には蔓延防止措置や罹患時の適切な処置を行い、市民の生命や身体を保護することにより、安全安心な生活を確保する。						
	対象者(受益者)	災害及び新型インフルエンザ等の発生により被害を受ける恐れのある市民						
	現状・課題	災害及び新型インフルエンザ等が発生した場合、市民の生命・身体等に被害を被るおそれがある。						
	事業の概要	枚方市災害医療対策会議等の開催及び拠点応急救護所設営訓練の実施等、関係機関との相互連携を強化する。新型インフルエンザ等対策については、「枚方市新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき対策を講じる。						
	年間の主な事務	・災害時における医療救護体制の強化を図るため、枚方市災害医療対策会議により災害医療等を検討するとともに、拠点応急救護所設営訓練等を行う。 ・新型インフルエンザ等対策に対する職員の理解や情報の共有が図られるよう、研修を行う。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.55人	1.57人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,228	12,888	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		4,228	12,888	—	—		
	物件費計		2,283	3,252	—	—	3,785	85.9%
歳出計			6,511	16,140	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			2,283	3,252	—	—	3,785	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 災害医療対策に関する取り組みを行う。（災害医療訓練の実施回数）	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② 新型インフルエンザ対策に関する取り組みを実施する。（全体研修の実施回数）	回	0 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：関係機関との相互連携を強化する。

指標：拠点応急救護所設営訓練の開催回数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1	1	1	1	回
実績	1	1	―	―	回
算出方法	開催回数より算出				

ロジックモデル

アウトプット②

説明：新型インフルエンザ対策に対する職員の理解や情報の共有が図られる。

指標：全体研修対象者の参加割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	0	100	―	―	%
算出方法	参加者／参加対象者×100				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：災害医療体制が充実する。

指標：拠点応急救護所設営訓練練アンケート提出者のうち、枚方市災害医療体制について理解した参加者の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	95	95	95	95	%
実績	95	97	―	―	%
算出方法	枚方市災害医療体制について理解した人／アンケート提出者×100				

アウトカム②

説明：災害医療体制が充実する。

指標：全体研修アンケート提出者のうち、新型インフルエンザ対策について理解した参加者の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	95	95	95	95	%
実績	―	100	―	―	%
算出方法	新型インフルエンザ対策について理解した人／アンケート提出者×100				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

継続して関係医療機関等と災害医療対策会議を開催し、災害時医療の検討や拠点応急救護所設営訓練等を実施することで、災害時医療救護体制の更なる強化や質の向上を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	災害発生時に迅速かつ適切な医療救護活動を展開できるよう、災害医療協力病院との連携訓練を令和6年12月に実施した。また、「災害時医療救護活動マニュアル」及び「拠点応急救護所設置・運営マニュアル」に関連した三師会の災害対応マニュアルである「医師会災害対応マニュアル」（令和5年度改訂）及び「歯科医師会災害時対応マニュアル」（令和6年度改訂）の共有を行った。これらの取り組みをとおして、災害医療に係る共通認識や課題の整理を図ることができ、災害時医療救護体制の更なる強化につながった。
R7年度	災害発生時に迅速かつ適切な医療救護活動を展開できるよう、災害医療協力病院との連携訓練を令和7年11月に実施した。また、令和8年2月に災害医療対策会議を開催し、各機関の災害訓練の取組や災害時の通信手段について意見交換を行った。これらの取り組みをとおして、災害医療に係る共通認識や課題の整理を図ることができ、災害時医療救護体制の更なる強化につながった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	継続して関係医療機関等と災害医療対策会議を開催し、災害時医療の検討や拠点応急救護所設営訓練等を実施することで、災害時医療救護体制の更なる強化や質の向上を図る。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
		現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　103

事務事業名称		総合福祉センター維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1976(S51)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市総合福祉センター条例及び同施行規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	総合福祉センター利用者が、施設を安心して安全快適に利用することができ、心身の健康と福祉の増進を図っている。						
	対象者(受益者)	総合福祉センター利用者						
	現状・課題	総合福祉センターの利用者が、安全・快適に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等を実施する必要がある。						
	事業の概要	老人福祉法第20条の7に規定する老人福祉センターとして、施設を市民活動の場として提供するとともに、主に高齢者に対して、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等の事業を行う。 高齢者の生きがいと健康増進及び市民各層との交流を図るため以下の事業を実施している。 1. 部屋、体育室の貸し出し、2. 近隣大学との共同講座や料理教室など世代間交流事業、3. 老人趣味の講座・老人いきいき講座 4. 機関誌の発行、5. 健康・生活相談、6. 風呂、7. 送迎バス運行等						
	年間の主な事務	・指定管理者との報告や相談の対応(随時) ・市広報等での情報発信(月平均1回) ・定期モニタリング(年2回) ・使用料等の還付金や指定管理料処理						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.68人	0.40人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	5,228	3,284	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	5,228	3,284	—	—		
歳出 物件費計	102,190	119,894	—	—	123,392	97.2%
歳出計	107,418	123,178	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	3,801	3,802	—	—	3,738	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	3,801	3,802	—	—	3,738	
一般財源(物件費充当分のみ)	98,389	116,092	—	—	119,654	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な修繕、補修工事等を実施する(市実施分)	回	1 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	施設の維持管理を行う。
指標	必要な修繕、補修工事等の実施回数(市及び指定管理者実施分)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2	2	2	2	回
実績	12	9	―	―	回
算出方法	修繕、補修工事等の実施回数より算出				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	利用者の安全快適な利用環境が保たれる。
指標	利用制限の日数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1	1	1	1	日
実績	0	0	―	―	日
算出方法	修繕などで利用者の利用制限を行った日数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

施設の維持補修や指定管理者の管理運営が適正に実施されていることを定期モニタリングなどを通して確認することで、利用者が施設を安心して安全快適に利用することができ、心身の健康と福祉の増進を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万以上の事案(保全計画含む)は市実施で1件、30万未満を含む指定管理者実施分は11件であった。
R7年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件50万円以上の事案(保全計画含む)は市実施で1件、50万円未満を含む指定管理者実施分は8件であった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、利用者が施設を安心して安全快適に利用することができ、心身の健康と福祉の増進を図る。 また利用者の利便性の向上のため施設予約システムを導入し、令和8年度内に稼働できるようにする。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　104

事務事業名称		総合福祉会館維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1998(H10)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市立総合福祉会館条例及び同施行規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	高齢者・障害者などの福祉サービスが充実する。また、活動の場を提供することにより、福祉活動が促進される。						
	対象者(受益者)	福祉活動を行う市民・団体など、総合福祉会館の利用者						
	現状・課題	福祉活動や市民交流の輪を広げる場が必要						
	事業の概要	指定管理者制度を導入し、指定管理者として、HUG共同事業体(ハートユニフィグループ)が管理運営を行っている。(令和3年度～令和7年度の5年間)						
	年間の主な事務	・有料貸室の貸出等会館管理 ・施設の維持管理 ・温水プールの運営　など						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.85人	0.76人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	6,535	6,239	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	76	0	—	—		
歳出 人件費計	6,611	6,239	—	—		
歳出 物件費計	324,902	560,048	—	—	572,940	97.7%
歳出計	331,513	566,287	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	13,981	12,878	—	—	14,362	
歳入 市債	114,100	343,600	—	—	352,600	
歳入 その他	27,099	601	—	—	800	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	155,180	357,079	—	—	367,762	
一般財源(物件費充当分のみ)	169,722	202,969	—	—	205,178	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 開館日数	日	347 日	346 日	— 日	— 日
② 貸室利用件数(無料貸室含む)	件	5,725 件	5,579 件	— 件	— 件
③ 温水プール開業日数	日	296 日	265 日	— 日	— 日

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	施設の維持管理を行う。
指標	修繕、補修工事等の実施回数(目標値はR6実績)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6	6	6	6	件
実績	6	8	—	—	件
算出方法	予算化した案件のうち執行できた件数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

施設の維持補修や指定管理者の管理運営が適正に実施されていることを定期モニタリングなどを通して確認することで安全に施設を利用できることにより、高齢者・障害者などの福祉サービスが充実するとともに、活動の場ともなり、福祉活動が促進される。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	指定管理者制度により、会館運営、貸室業務、維持管理業務、温水プールの運営、各種福祉講座等を実施した。 令和6年度は、エレベーターの耐震等工事、区分開閉器更新工事他4件の備品等の更新を行った。また、市の附属機関として「枚方市立総合福祉会館ESCO 事業者選定審査会」を設置し、専門的見地からの当該事業者の選定について諮問し、最優秀提案者等の答申を受け、契約締結を行った。
R7年度	指定管理者制度により、会館運営、貸室業務、維持管理業務、温水プールの運営、各種福祉講座等を実施した。 令和7年度は、自動扉の部品交換やシャッター防煙垂れ壁の修繕他6件の備品購入等の対応をした。 「枚方市立総合福祉会館指定管理者選定委員会」に対し、枚方市立総合福祉会館における指定候補者の選定について諮問し答申を受け、契約締結を行った。 また、枚方市総合福祉会館ESCO事業においては、老朽化設備の更新・省エネ改修を行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き適正な会館管理を行い、福祉活動の場を提供していく。 また令和8年度からは指定管理者としてLINKひらかた共同事業体が管理運営を行っていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　122

事務事業名称		健康医療都市ひらかた推進事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	6.誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2012(H24)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	健康医療都市ひらかたコンソ―シアム連携事業実施要領						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	健康・医療に関わる各関係機関が密接に連携し、様々な連携事業を実施することで、市民の健康増進や医療体制の強化につなげる。						
	対象者(受益者)	事業に参加する市民/健康医療都市ひらかたコンソーシアムを構成する市内の医療機関や医療系大学、関係団体						
	現状・課題	自ら健康増進を図る知識や機会を得る効果的なすべが少ない。(令和6年度市民意識調査では「心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じていますか。」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した人は約55%となっている) 各団体がそれぞれの事業効果を高める必要がある。						
	事業の概要	平成24年8月に設立した「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」に参画する構成団体 14団体と連携団体 2団体を中心に、社会資源の共同利用や情報の共有、人材の交流、健康医療に関する情報発信等を行う。コンソーシアムにおける連携事業としては、以下の事業を想定している。 ・災害医療対策のための連携事業　・地域完結型医療実現のための連携事業　・こころの健康増進のための連携事業 ・健康づくり・介護予防事業推進のための連携事業　・母と子どもの健康支援のための連携事業 ・健康・医療アカデミー創設による連携事業　・健康・医療関連の地域振興・まちづくりのための連携事業 ・健康・医療に関する情報発信のための連携事業 【構成団体】14団体 枚方市、枚方市保健所、枚方市医師会、枚方市歯科医師会、枚方市薬剤師会、関西医科大学、大阪歯科大学、摂南大学、関西医科大学附属病院、星ヶ丘医療センター、枚方公済病院、大阪精神医療センター、市立ひらかた病院、枚方市病院協会 【連携団体】2団体 枚方市スポーツ協会、枚方寝屋川消防組合						
	年間の主な事務	健康医療都市ひらかたコンソーシアムへ本市負担金を支払う。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.45人	0.36人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	3,460	2,955	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	3,460	2,955	—	—		
歳出 物件費計	130	54	—	—	598	9.0%
歳出計	3,590	3,009	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	130	54	—	—	598	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 健康医療都市ひらかたコンソーシアム負担金額	円	50,000 円	50,000 円	― 円	― 円
② 「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」連携事業を実施する	回	31 回	25 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 連携事業に市民等が参加する。

指標: 連携事業への市民等の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12,000	12,500	12,500	12,500	人
実績	15,865	13,415	―	―	人
算出方法	連携事業への市民等の参加者数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 市民の健康増進が図られる。

指標: 事務局主催事業における参加者アンケートで、「健康に関する意識が高まった」と回答した人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	79	78	―	―	%
算出方法	健康に関する意識が高まったと回答した人／アンケート数×100				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民意識調査で「心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じていますか。」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した人は約60%を超える

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	多くの市民が参加する講演会・研修等が実施でき目標を達成した。 令和2年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、実績がなかったキャラバン事業について小学校4校から申込があり実施できた。
R7年度	昨年度に引き続き、多くの市民が参加する講演会・研修会が実施できた。また、キャラバン事業では、新たにプログラム内容を追加し、既存のプログラムと併せて小中学校5校で実施できた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」に参画する14団体を中心に、社会資源の共同利用や情報共有、人材の交流、健康医療に関する情報発信等を行うとともに、コンソーシアム参画団体の代表者が参加する代表者会議及び事務責任者が参加する事務レベル会議を開催する。また、令和9年度の15周年記念イベントに向けて、参画団体との協議を進めていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　160

事務事業名称		枚方市立総合福祉会館　福祉相談・福祉情報提供等事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	6.誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2021(R3)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市立総合福祉会館条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	福祉会館として福祉に関する相談並びに情報の収集及び提供を行い、傾聴・助言、専門相談機関の案内等を行うことで、市民が安心して生活を送ることができる。						
	対象者(受益者)	地域における高齢者、障害者、低所得者など援護を要するあらゆる者						
	現状・課題	悩みを聞いてほしい。						
	事業の概要	枚方市立総合福祉会館において福祉の 相談を目的に来館又は電話等をされる市民等に対して、常時対応することにより、地域における高齢者、障害者、低所得者 など援護を要するあらゆる者(援護を要するおそれのある者を含む。)又はその家族・親族等の支援 の充実を図り、 福祉会館としての環境整備 を整えること、また、障害者の雇用を創出し、ピアカウンセリングを実施 することを目的と する。 枚方市立総合福祉会館の会館事業として指定管理業務であったものを、令和3年度から市が事業委託として実施している。 ＜委託期間＞令和6年(2024年)4月1日から令和8年(2026年)3月31日まで(2年間)						
	年間の主な事務	(1)福祉相談 業務 ①業務内容 枚方市立総合福祉会館に来館あるいは電話等で市民等から相談が入った際に、高齢者や障害者、子ども、低所得者等の幅広い相談 を行い、助言等を行う 。 ②相談対応時間 枚方市立総合福祉会館の開館日　9 時～ 17 時 30 分 ③ 相談場所 枚方市立総合福祉会館　1階相談室2 ④従事者資格要件 社会福祉士、介護福祉士もしくは 福祉相談実務経験を2年以上有する者 ⑤ その他 相談がない時間帯は福祉情報提供業務を含め、他の事務業務を行うことを可とする。ただし、当該会館内に常駐するものとする。 (2)福祉情報提供等業務 ①業務内容 枚方市立総合福祉会館4 階福祉図書コーナーに来館された市民等に福祉に関する図書、ビデオ視聴の貸し出し等の受付業務の他、福祉図書の蔵書管理、福祉に関する情報の提供や検索を支援する 。また、スタッフは障害者2名以上による運営を行い、障害者当事者としてピアカウンセリングを実施するとともに、必要に応じて、(1)福祉相談業務へ繋ぐこととする。 ②相談対応時間 枚方市立総合福祉会館の開館日　9 時～ 17 時 30 分 ③ 相談場所 枚方市立総合福祉会館　4階福祉図書コーナー ④従事者資格要件 ｉ)身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている者で、相談者の相談に対応できる者 。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.11人	0.04人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額			（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	846	328	—	—		
			会計年度任用職員	0	0	—	—		
			特別職非常勤	0	0	—	—		
			附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計		846	328	—	—		
		物件費計		17,055	17,055	—	—	17,055	100.0%
	歳出計			17,901	17,383	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	（留意事項） ※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。
		府支出金		0	0	—	—	0	
		受益者負担（使用料・手数料）		0	0	—	—	0	
		市債		0	0	—	—	0	
		その他		0	0	—	—	0	
	歳入計（物件費に充当される特定財源）			0	0	—	—	0	
	一般財源（物件費充当分のみ）			17,055	17,055	—	—	17,055	

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 総合福祉会館に福祉相談窓口を開設する	日	347 日	346 日	— 日	— 日
② 相談件数	件	28 件	20 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：福祉情報提供を行う。

指標：福祉図書コーナー（4階）の開所日

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	347	347	347	348	日
実績	347	346	—	—	日

算出方法：4階 福祉図書コーナー開所日

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：福祉に関する情報を得ることができる。

指標：福祉図書コーナー（4階）の来所者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	4,806	4,806	4,806	4,806	人
実績	4,806	4,084	—	—	人

算出方法：4階 福祉図書コーナー来所者数（目標はR6実績）

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

福祉相談と福祉情報提供等を継続して行うことで、地域における高齢者、障害者、低所得者など援護を要するあらゆる者の支援の充実を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	全日開室し、相談に対しては適切に対応できた。
R7年度	全日開室し、相談に対しては適切に対応できた。令和7年度においては来所者数が4,084人になり、目標を達成できなかった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	引き続き、事業について市民に知ってもらうための広報等の取り組みを強化していく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　175

事務事業名称		健康・医療・福祉フェスティバル開催事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1989(S64)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規定、枚方市健康・医療・福祉フェスティバル実行委員会規約						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	より多くの市民が参加することで、健康、医療、福祉に対する意識が高揚し、自ら健康づくりを実践する気運が高まる。						
	対象者（受益者）	事業に参加する市民（約8,000人）						
	現状・課題	健康、医療、福祉について関心が低い（考える機会が少ない）市民が一定数いる。 （令和6年度市民意識調査では「心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じていますか。」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した人は約55%となっている）						
	事業の概要	・医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、枚方市の共催で「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」を開催する。 ・フェスティバル開催に向け、5団体より選出された委員による実行委員会を開催し、準備を進める。 ・フェスティバルでは各団体が健康・医療・福祉をテーマに様々な催しを実施する。						
	年間の主な事務	・枚方市健康・医療・福祉フェスティバルの企画・運営（例年3月～10月）						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.92人	0.48人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.28人	0.12人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	7,073	3,940	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	398	255	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	7,471	4,195	—	—		
歳出	物件費計	2,300	2,300	—	—	2,300	100.0%
歳出計		9,771	6,495	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		2,300	2,300	—	—	2,300	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「健康・医療・福祉フェスティバル」実行委員会を開催する。	回	3 回	3 回	― 回	― 回
② 「健康・医療・福祉フェスティバル」を開催する。	回	1 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	「健康・医療・福祉フェスティバル」に市民等が参加する。
指標	参加者数(延べ人数)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	8,100	8,150	8,200	8,250	人
実績	8,058	6,817	―	―	人
算出方法	参加者数(延べ人数)				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	市民の健康・医療・福祉に対する意識が高まる。
指標	健康・医療・福祉フェスティバル参加者アンケートで健康・医療・福祉に対する意識が「意識が高まった」と回答した人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	94	95	96	97	%
実績	93	90	―	―	%
算出方法	「意識が高まった」と回答した人の割合/アンケート数×100				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民意識調査で「心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じていますか。」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した人は約60%を超える

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	目標値に近い多くの方に来場いただき、「健康に関する意識が高まった」回答率が高かった。
R7年度	天候不良により来場者は減少したが、「健康に関する意識が高まった」の回答率は高かった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、健康に関する意識を高められるようイベント内容を充実し、SNS等を活用して周知を行う。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　176

事務事業名称		ひらかた安心カプセル配付事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2010(H22)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	緊急搬送時の対応に不安を持つすべての市民が、安心カプセルを所有する。						
	対象者（受益者）	安心カプセルの配付を希望する市民（65歳以上の方、障害者手帳を有する方、妊婦、一人暮らしの方、家族で住んでいるが日中は一人になる方）/地域の民生委員・児童委員（見守り活動を通じて安心カプセルを配付していることから、地域に見守りが必要な人を把握できることや、対象者とのつながり強化に資するため）						
	現状・課題	安心カプセルの配付を希望する市民について、緊急搬送時に救急隊員が駆け付けた際に、自身の病気や緊急連絡先を明確に伝えることができない。						
	事業の概要	高齢者や障害者、一人住まいの市民等からの申請に応じて、ひらかた安心カプセル（救急医療情報キット）を配付する。なお、配付については、民生委員、枚方寝屋川CKD研究会に参加する市内の人工透析を行う病院・診療所及び枚方市医師会の協力医療機関を通じて行う。						
	年間の主な事務	・安心カプセルの配布を希望する市民へ窓口で配布、または地域の民生委員を伝達 ・窓口で安心カプセルを交付した市民情報を担当民生委員へ情報共有						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.17人	0.17人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出	内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,307	1,396	—	—		
	内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
	内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
	内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計	1,307	1,396	—	—		
	物件費計	0	547	—	—	1,038	52.7%
歳出計		1,307	1,943	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
	府支出金	0	0	—	—	0	
	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
	市債	0	0	—	—	0	
	その他	0	547	—	—	796	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	547	—	—	796	
一般財源（物件費充当分のみ）		0	0	—	—	242	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ひらかた安心カプセルの配布	個	461 個	562 個	— 個	— 個

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	安心カプセルの配布を希望する市民に安心カプセルを配布する。
指標	安心カプセルの配布個数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	560	560	560	560	個
実績	461	562	—	—	個
算出方法	安心カプセルの在庫数から算出				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	緊急搬送時の対応に不安を持つすべての市民が、安心カプセルを所有する。
指標	安心カプセルの配付数（累計）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	11,745	12,305	12,865	13,425	個
実績	11,277	11,839	—	—	個
算出方法	安心カプセルの在庫数から算出				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

安心カプセルの認知が広がり、緊急搬送時の対応に不安を持つ市民すべてが安心カプセルを所有する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	民生委員による見守り活動の中で、希望者に対して順次配布するとともに、市内の協力医療機関を通じて希望者に配布している。令和6年度より市役所健康福祉政策課での配布もスタートしたことで、前年と比較して配布個数が増加した。また、広報ひらかたに事業内容を掲載することで市民周知を行った。
R7年度	民生委員による見守り活動の中で、希望者に対して順次配布するとともに、市内の協力医療機関を通じて希望者に配布している。民生委員による積極的な周知活動とあわせて、令和7年度は、広報ひらかたでの周知や全戸配布した「民生委員・児童委員名簿」にも安心カプセルについて記載したことで、配布個数が増加した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、ひらかた安心カプセルの啓発・推進を図る。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　181

事務事業名称		公共施設・コンビニへのAED設置事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち			性質	健康・医療		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2015(H27)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁、協定書						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	市内公共施設や24時間営業のコンビニエンスストアにAEDを設置することで、いつでもAEDを使用できる環境を整備する。						
	対象者(受益者)	突然の心停止に伴い、心肺蘇生(AEDの使用)を必要とする全ての市民/市内公共施設及び24時間営業のコンビニエンスストア						
	現状・課題	突然の心停止に伴い、心肺蘇生(AEDの使用)を必要とする場合にAEDが無ければ、救命率が低下する。 公共施設は、休日や夜間は閉館しAEDを使用できないため、休日や夜間に発症した場合は、特に救命率が低下する。						
	事業の概要	突然の心停止からの救命率向上について、AEDの有効性が実証されており、市では従来から本市公共施設に設置していた。しかし、夜間や休日はAED設置施設が閉館しているため、平成27年4月から24時間営業の市内コンビニエンスストアに協力を得て、常時AEDを設置できる環境を整備するもの。なお、コンビニエンスストアからの要望に応じて、AED講習会を枚方寝屋川消防組合と連携して行うもの。						
	年間の主な事務	・設置しているAEDについて適正に管理を行う。 ・常時AEDが使用できる環境整備を行う、						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.29人	0.49人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,230	4,022	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	2,230	4,022	—	—		
歳出	物件費計	2,462	3,007	—	—	3,370	89.2%
歳出計		4,692	7,029	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		2,462	3,007	—	—	3,370	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 公共施設へAEDを設置する。	台	16 台	16 台	― 台	― 台
② 市内のコンビニへAEDを設置する。	台	95 台	103 台	― 台	― 台

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明	緊急時にAEDを使用できる環境整備。				
指標	健康福祉政策課が設置・所管するAEDの台数				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	16	16	16	16	台
実績	16	16	―	―	台
算出方法	設置台数				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	緊急時にAEDを使用できる環境を整備する。				
指標	コンビニ設置AEDの台数				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	95	105	105	105	台
実績	95	103	―	―	台
算出方法	設置台数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	設置後、経年化による不具合等の防止のため、定期的な動作確認や、消耗品の確認を行い、AEDを適正に管理する。				
指標	健康福祉政策課が設置・所管するAEDの正常作動率				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%
算出方法	正常に作動したAED台数/実際に使用したAED台数				

アウトカム②

説明	設置したAEDがいざという時に「使用できない」などのトラブルがないよう適正な管理を行うことで、市民が安心して暮らせるまちを実現する。				
指標	コンビニ設置AEDの正常作動率				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%
算出方法	正常に作動したAED台数/実際に使用したAED台数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市内公共施設やコンビニエンスストアへのAED設置により、いつでもAEDを使用できる環境の整備を進め、さらには、設置したAEDがいざという時に「使用できない」などのトラブルがないよう適正な管理を行うことで、市民が安心して暮らせるまちの実現を目指す。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	コンビニの新規出店等に伴い、AED未設置店舗数の増加が見込まれることから、AED設置協定を締結しているコンビニ各社と連携し、市内コンビニのAED設置状況に関する状況調査を実施した。これらの調査結果をもとに、引き続き、常時AEDが使用できる環境整備に向けた取組を推進する。
R7年度	R6年度に実施した市内コンビニのAED設置状況に関する状況調査に基づき、設置の意向のあったAED未設置のコンビニに対してAEDを設置したほか、引き続き、常時AEDが使用できる環境整備に向けた取組を推進した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	現賃貸借契約がR7年度で終了となることから、賃貸借契約の更新に向け、次期後継機の選定やAED未設置店舗に再度意向調査を実施し、1店舗でも多くのコンビニにAEDを設置できるよう取組を推進する。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
		現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　182

事務事業名称		休日・土曜夜間急病診療事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1974(S49)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市事務決裁規定						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	日曜日・祝日・年末年始や土曜日の夜間に病気を発症した場合でも、内科診療を受診することができる。						
	対象者(受益者)	救急患者/枚方市医師会						
	現状・課題	日曜日・祝日・年末年始や土曜日の夜間に病気を発症した場合、一般の診療所等は診療を行っていないため、受診することができない。						
	事業の概要	・診療科目は内科と小児科。 ・診療日時は日曜日、祝日、年末年始の午前10時～12時及び午後1時～5時、土曜日の午後6時～9時。 ・診療業務については、枚方市医師会に全面委託し実施する。						
	年間の主な事務	・業務委託締結 ・委託料の支払い						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.12人	0.14人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	923	1,149	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		923	1,149	—	—		
	物件費計		26,931	26,931	—	—	27,130	99.3%
歳出計			27,854	28,080	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			26,931	26,931	—	—	27,130	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 業務委託契約締結	回	1 回	1 回	— 回	— 回
② 委託金額	円	26,931,198 円	26,931,198 円	— 円	— 円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	休日・土曜夜間に病気を発症した場合にも診療を受けることができる。
指標	開設日数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	—	—	%
算出方法	開設日/土・日・祝・年末年始				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	日曜日・祝日・年末年始や土曜日の夜間に病気を発症した場合でも、内科診療を受診することができる。
指標	受診患者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7,000	7,000	7,000	7,000	人
実績	6,012	5,453	—	—	人
算出方法	受診患者数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民意識調査で「安心して適切な医療を受けられる環境が整っていると感じますか」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答する人の割合が65%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	休日、土曜夜間の初期救急医療体制を確保することで、救急で来院した患者に対して、適切な医療を提供することができた。
R7年度	休日、土曜夜間の初期救急医療体制を確保することで、救急で来院した患者に対して、適切な医療を提供することができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	今後も継続して、実施する。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　184

事務事業名称		高度救命救急医療推進協議会負担金交付事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	義務的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	選択的区分		
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち			性質	健康・医療		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2006（H18）年度　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	北河内北東部地域高度救命救急医療補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	重篤患者に対して迅速かつ適切な医療を提供することで、患者の生命を守ることができる。						
	対象者（受益者）	救急患者/関西医科大学附属病院						
	現状・課題	重篤患者が迅速かつ適切な医療の提供を受けることができず、生命の危機に陥る可能性が高まる。						
	事業の概要	北河内北東部の高度救命救急体制を維持するため、関西医科大学附属病院に対して、枚方市、寝屋川市、交野市の3市による支援を行う。						
	年間の主な事務	補助金のうち本市負担金を高度救命救急医療推進協議会事務局として支払う。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.24人	0.19人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出	内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,845	1,560	—	—		
	内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
	内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
	内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計	1,845	1,560	—	—		
	物件費計	10,601	10,601	—	—	10,601	100.0%
歳出計		12,446	12,161	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
	府支出金	0	0	—	—	0	
	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
	市債	0	0	—	—	0	
	その他	3,901	3,901	—	—	3,900	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		3,901	3,901	—	—	3,900	
一般財源（物件費充当分のみ）		6,700	6,700	—	—	6,701	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 交付金額のうち本市負担金額	円	6,700,258 円	6,700,330 円	― 円	― 円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	北河内北東部の高度救命救急体制が維持される。
指標	開設割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%
算出方法	年間開設日数/365				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	重篤患者の受け入れができる。
指標	年間受け入れ数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	600	600	600	600	人
実績	549	689	―	―	人
算出方法	枚方市民の年間受け入れ患者数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市民意識調査で「安心して適切な医療を受けられる環境が整っていると感じますか」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答する人の割合が65%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	指標の達成度については想定どおりであった。今後も引き続き高度救命救急体制の維持に努める。
R7年度	指標の達成度については想定どおりであった。今後も引き続き高度救命救急体制の維持に努める。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	今後も引き続き高度救命救急体制の維持に努める。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　185

事務事業名称		二次救急医療負担金交付事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	非選択的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2000(H12)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	北河内二次救急医療協議会規約						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	北河内医療圏内の二次救急医療体制を確保・維持することで、救急患者が受診することができる。						
	対象者（受益者）	救急患者/北河内医療圏内の二次救急医療機関（救急告示病院）						
	現状・課題	北河内医療圏内の二次救急医療体制を確保・維持できないと、救急患者が受診することができない。						
	事業の概要	北河内7市の行政で「北河内二次救急医療協議会」を組織し、北河内医療圏域の二次救急医療に関する事務を共同で行う。 ①病院群輪番制病院運営事業補助 ②小児救急医療支援事業補助 ③北河内小児救急協力医療機関支援事業補助として、該当する医療機関に対して協議会から補助金を支出する。						
	年間の主な事務	補助金のうち、本市負担金を北河内二次救急医療協議会へ支払う。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.40人	0.35人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,075	2,873	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	3,075	2,873	—	—		
歳出	物件費計	27,280	27,293	—	—	27,293	100.0%
歳出計		30,355	30,166	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	16,801	16,828	—	—	16,828	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		16,801	16,828	—	—	16,828	
一般財源（物件費充当分のみ）		10,479	10,465	—	—	10,465	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 交付金額のうち本市負担金額	円	27,280,000 円	27,293,000 円	― 円	― 円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：北河内医療圏内の二次救急医療体制が確保・維持できる。

指標：開設割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%

算出方法：二次救急医療協議会補助金（病院群輪番制病院運営事業）の対象医療機関における年間開設日数/365

ロジックモデル

アウトプット②

説明：北河内医療圏内の二次救急医療体制が確保・維持できる。

指標：開設割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%

算出方法：二次救急医療協議会補助金（小児救急医療支援事業）の対象医療機関における年間開設日数/365

ロジックモデル

アウトプット③

説明：北河内医療圏内の二次救急医療体制が確保・維持できる。

指標：開設割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%

算出方法：二次救急医療協議会補助金（北河内小児救急協力医療機関支援事業補助）の対象医療機関における年間開設日数/365

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：救急患者の受け入れができる。

指標：年間受診者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	97,000	97,000	97,000	97,000	人
実績	99,219	93,473	―	―	人

算出方法：二次救急医療協議会補助金（病院群輪番制病院運営事業）の対象医療機関における年間受け入れ患者数

アウトカム②

説明：救急患者の受け入れができる。

指標：年間受診者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2,800	2,800	2,800	2,800	人
実績	2,593	2,569	―	―	人

算出方法：二次救急医療協議会補助金（小児救急医療支援事業）の対象医療機関における年間受け入れ患者数

アウトカム③

説明：救急患者の受け入れができる。

指標：年間受診者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6,600	6,600	6,600	6,600	人
実績	8,032	8,598	―	―	人

算出方法：二次救急医療協議会補助金（北河内小児救急協力医療機関支援事業補助）の対象医療機関における年間受け入れ患者数

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市民意識調査で「安心して適切な医療を受けられる環境が整っていると感じますか」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答する人の割合が65%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	指標の達成度については想定どおりであった。今後も引き続き二次救急医療体制の確保・維持に取り組む。
R7年度	指標の達成度については想定どおりであった。今後も引き続き二次救急医療体制の確保・維持に取り組む。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	引き続き二次救急医療体制の確保・維持に取り組む。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過				
	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　186

事務事業名称		北河内こども夜間救急センター運営事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	選択的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1980(S55)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	北河内夜間救急センター設置条例、北河内夜間救急センター設置条例施行規則、北河内夜間救急センター協議会規約						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	北河内こども夜間救急センターにおいて、夜間に小児科診療を受けられる。						
	対象者（受益者）	救急患者/北河内夜間救急センター協議会						
	現状・課題	夜間に病気を発症した場合、一般の診療所等は診療を行っていないため、受診することができない。						
	事業の概要	・入院の必要がない軽症患者の小児科診療を行うため、北河内こども夜間救急センターにおいて、一般の診療所等が診療を行っていない夜間に小児科診療（中学校3年生まで）を実施する。 ・北河内7市で北河内夜間救急センター協議会を設置し、北河内こども夜間救急センター運営費を負担する。						
	年間の主な事務	北河内こども夜間救急センター運営費のうち本市負担金を北河内夜間救急センター協議会へ支払う。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	1.05人	1.12人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.32人	0.32人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	8,072	9,194	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	942	1,032	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	9,014	10,226	—	—		
歳出	物件費計	137,921	138,400	—	—	157,229	88.0%
歳出計		146,935	148,626	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	934	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	68,721	66,730	—	—	86,594	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		68,721	67,664	—	—	86,594	
一般財源（物件費充当分のみ）		69,200	70,736	—	—	70,635	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 北河内こども夜間救急センター運営費のうち本市負担金額	円	69,200,000 円	74,896,000 円	― 円	― 円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	夜間小児科診療が開設される。
指標	北河内こども夜間救急センターの年間開設割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	―	―	%
算出方法	北河内こども夜間救急センターの年間開設日数/365				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	救急患者が受診できる。
指標	北河内こども夜間救急センターの年間受診者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6,000	6,000	6,000	6,000	人
実績	5,223	4,799	―	―	人
算出方法	北河内こども夜間救急センターの年間受診者数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市民意識調査で「安心して適切な医療を受けられる環境が整っていると感じますか」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答する子育て世代の割合が65%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	北河内7市が連携して北河内こども夜間救急センターの運営費を負担することで、年間365日夜間の小児救急医療体制を確保し、北河内こども夜間救急センターを運営することができた。また、令和6年9月より当センターの診療時間を延長することで小児初期救急医療の充実を図った。
R7年度	北河内7市が連携して北河内こども夜間救急センターの運営費を負担することで、年間365日夜間の小児救急医療体制を確保し、北河内こども夜間救急センターを運営することができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	今後も北河内7市や医師会など関係機関が連携し、北河内こども夜間救急センターの適正な運営を継続する。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	拡充	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　188

事務事業名称		枚方市病院事業会計に対する負担金・補助金交付事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	財務・公財管理	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　不明		～		事業終了予定：　未定(継続実施含む)		
	根拠法令等	地方公営企業法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:　—		
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市立ひらかた病院の経営健全化を促進し経営基盤を強化することで、市民が安心して適切な医療が受けられる。						
	対象者(受益者)	市立ひらかた病院/市立ひらかた病院を利用する市民						
	現状・課題	市立ひらかた病院の安定的・継続的な経営						
	事業の概要	市立ひらかた病院の研究研修費や企業償還金、建設改良費などに要する経費について、地方公営企業法に基づき、一般会計から繰出しを行う。						
	年間の主な事務	病院事業会計への繰出金の支出(年2回)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.04人	0.04人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	308	328	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	308	328	—	—		
歳出 物件費計	1,571,693	1,729,176	—	—	1,729,176	100.0%
歳出計	1,572,001	1,729,504	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	1,571,693	1,729,176	—	—	1,729,176	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 病院事業会計への繰出金の支出(年2回)	円	1,571,693,000 円	1,729,176,000 円	— 円	— 円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	年2回、負担金の繰出しを行った。
R7年度	年2回、負担金の繰出しを行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、必要な経費について一般会計から繰出しを行う。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　194

事務事業名称		医療通訳士登録派遣事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2013(H25)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市医療通訳士登録派遣事業実施要領						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	日本語を話せない外国人住民等が安心して市内の医療機関を利用し、適切に医療を受けることができる。 コミュニケーションギャップに起因する医師の負担や診療上のリスクを軽減した医療を提供できる。						
	対象者(受益者)	日本語を話せない外国人住民等/日本語を話せない外国人住民等を診察する医療機関						
	現状・課題	日本語が話せないことにより、適切な医療を受けられない。 医療機関利用時におけるコミュニケーションギャップに起因する医師の負担や診療上のリスク。						
	事業の概要	日本語を話せない外国人住民等が、安心して市内の医療機関を利用できるとともに、コミュニケーションギャップに起因する医師の負担や診療上のリスクを軽減できるよう医療通訳士の養成と、医療機関への派遣を行う。 対象言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語の4カ国語 派遣対象機関：市内41の医療機関及びまるっとこどもセンター(乳幼児健診) 派遣料金：無料 ※「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」の連携事業として実施。 ※医療通訳士のコーディネート及び研修を特定非営利活動法人多文化共生センターきょうとへ業務委託している。						
	年間の主な事務	・業務委託締結及び委託料の支払い(年1回) ・派遣した医療通訳士への報償費の支払い(毎月)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.06人	0.19人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	461	1,560	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	461	1,560	—	—		
歳出 物件費計	3,949	4,146	—	—	4,185	99.1%
歳出計	4,410	5,706	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	3,949	4,146	—	—	4,185	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 医療通訳士への研修	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② 医療通訳士登録人数	人	21 人	19 人	― 人	― 人

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：医療通訳士を医療機関へ派遣する。

指標：派遣件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	350	350	350	350	件
実績	388	377	―	―	件
算出方法	派遣件数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：日本語を話せない外国人住民等が安心して市内の医療機関を利用できる。

指標：通訳士派遣依頼件数のうち派遣できた割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	95	95	95	95	%
実績	98	79	―	―	%
算出方法	派遣件数／通訳士派遣依頼件数×100				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

市民意識調査で「安心して適切な医療を受けられる環境が整っていると感じますか」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答する人の割合が65%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	医療通訳の利用件数も増加傾向にあり、目標を上回る派遣件数となった。
R7年度	昨今のICTの普及に伴い、民間企業による様々な通訳サービスが整備されている状況や、大阪府において実施されているサービスにより、利用件数及び派遣件数は減少した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	昨今のICTの普及に伴い、民間企業による様々な通訳サービスが整備されている状況や、大阪府において「24時間多言語遠隔医療サービス」など、より使いやすく柔軟に利用できるサービスが行われている状況を踏まえ、本事業は令和7年度末をもって廃止した。	R8年度方向性	**廃止**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**廃止**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　204

事務事業名称		介護保険特別会計繰出金事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	財務・公財管理	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2000(H12)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	介護保険法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	介護保険法に基づく一般会計から介護保険特別会計への繰出金の支出管理が適正に行われている状態。						
	対象者(受益者)	課職員						
	現状・課題	介護保険法に基づく一般会計から介護保険特別会計への繰出金の支出管理を適正に行う必要がある。						
	事業の概要	【市町村の負担割合】 保険給付費総額の12.5% 地域支援事業費のうち総合事業については12.5%、包括的支援事業・任意事業費については19.25% 人件費などの事務経費については100%						
	年間の主な事務	一般会計から介護保険特別会計への繰出金支出事務(例年5月)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.57人	0.82人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,382	6,731	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		4,382	6,731	—	—		
	物件費計		5,142,695	5,478,424	—	—	5,714,640	95.9%
歳出計			5,147,077	5,485,155	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			5,142,695	5,478,424	—	—	5,714,640	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 繰出にかかる事務処理	回	1 回	1 回	— 回	— 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	介護保険法に基づく市町村（保険者）の負担金として、一般会計より介護保険特別会計へ繰出しを行う。
R7年度	介護保険法に基づく市町村（保険者）の負担金として、一般会計より介護保険特別会計へ繰出しを行う。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	適切な処理を行う。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　210

事務事業名称		ひらかた高齢者保健福祉計画21推進事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	—		
	事業期間	事業開始：　1999(H11)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	老人福祉法、介護保険法、共生社会の実現を推進するための認知症基本法、枚方市社会福祉審議会条例、枚方市社会福祉審議会規則						
	関係附属機関等	社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	高齢者が個々の心身の状態や生活状況に応じて、いつまでも住み慣れた地域で生きがいをもち、元気で自分らしい生活を送ることができる。						
	対象者(受益者)	高齢者/介護保険サービス事業者						
	現状・課題	高齢者が可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域全体で高齢者を支える仕組みづくりや、高齢者が継続して在宅生活ができる環境の整備が必要である。						
	事業の概要	老人福祉法及び介護保険法の規定に基づき、老人福祉計画と介護保険事業計画を「ひらかた高齢者保健福祉計画21」として一体的に策定することで、高齢者福祉事業の供給体制の確保及び介護保険事業に係る保険給付を円滑に実施していく。また、共生社会の実現を推進するための認知症基本法の施行に伴い、認知症施策推進計画を包含して策定する。計画は、3年を1期とした計画期間とし、介護給付等対象サービスや、地域支援事業の必要量の見込みなどについて定めるとともに、介護保険料の改定も盛り込んだ計画とするもの。調査審議は、枚方市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会で行う。						
	年間の主な事務	進捗状況の調査						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.21人	0.97人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	1,614	7,963	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		1,614	7,963	—	—		
	物件費計		0	2,816	—	—	6,727	41.9%
歳出計			1,614	10,779	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	2,062	—	—	3,747	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	2,062	—	—	3,747	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	754	—	—	2,980	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「ひらかた高齢者保健福祉計画21」の改訂および推進に係る事務を実施する。	回	2 回	3 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明	「ひらかた高齢者保健福祉計画21」に係る取り組みが確実に推進される。
指標	計画の進捗状況

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	96	96	―	―	%
算出方法	保険給付費及び地域支援事業費の実績値／計画値×100				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	―
指標	―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―		―	―	―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

「地域包括ケアシステム」の深化・推進により、高齢者が可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保され、また、制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、いわゆる「地域共生社会」が構築される。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度は第9期計画の初年度であり、施設整備や高齢者人口の伸び率等を考慮して見込んだ計画値と、比較的近い実績値となった。 また、介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施、認知症支援策及び在宅医療・介護連携事業の推進、介護保険施設等の整備に向けた公募選定など、第9期計画に掲げる各取り組みを進めた。
R7年度	令和7年度は第9期計画の中間年度であり、介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施、認知症施策及び在宅医療・介護連携事業の推進、介護保険施設等の整備など、第9期計画に掲げる各取り組みを進めた。その結果、施設整備や高齢者人口の伸び率等を考慮して見込んだ計画値と、比較的近い実績値となった。 また、令和9年度から令和11年度を計画期間とする第10期計画の策定に向け、国の基本指針に基づき、基礎資料となる高齢者実態調査を行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	ひらかた高齢者保健福祉計画21（第9期）に掲げる事項について、適切な進捗管理を行うとともに、介護保険制度の改正を踏まえたひらかた高齢者保健福祉計画21（第10期）の策定を進める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　224

事務事業名称		市立くずは北デイサービスセンター維持管理事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	維持管理区分		
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2015(H27)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市デイサービスセンター条例、介護保険法、老人福祉法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	安全に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等が実施され、市立くずは北デイサービスセンター利用者の心身の健康と福祉の増進が図られること。						
	対象者（受益者）	市立くずは北デイサービスセンター利用者/在宅で介護をしている家族						
	現状・課題	安全に利用できる施設への通所により、心身の健康と福祉の増進が図られ、在宅にて介護を継続することができる環境を保つ必要がある。						
	事業の概要	平成18年4月から、指定管理者制度を導入し、指定管理者として社会福祉法人大阪府母子寡婦福祉連合会が管理運営を行っている。食事や、入浴などの日常生活上の支援や機能訓練を日帰り等で利用できる施設。						
	年間の主な事務	・指定管理者との協議や調整（適宜） ・定期モニタリング等を通じて、適正な管理運営が行われているかの確認。 ・施設の必要な保守や修繕対応。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.38人	0.15人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,921	1,231	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	2,921	1,231	—	—		
歳出	物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
歳出計		2,921	1,231	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		0	0	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な修繕、補修工事等を実施する(市実施分)	回	0 回	0 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	施設の維持管理を行う。
指標	必要な修繕、補修工事の実施回数(市及び指定管理者実施分)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	回
実績	5	6	―	―	回
算出方法	修繕、補修工事等の実施回数より算出				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	利用者の安全快適な利用環境が保たれる。
指標	利用制限の日数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	日
実績	0	0	―	―	日
算出方法	修繕などで利用者の利用制限を行った日数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

施設の維持補修や指定管理者の管理運営が適正に実施されていることを定期モニタリングなどを通して確認することで安全に利用できる施設への通所により、心身の健康と福祉の増進が図られ、在宅にて介護を継続することができる環境を保つ。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案(保全計画含む)は市実施で2件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は5件、その他指定管理者による11件の設備等の保守点検・検査委託等を行った。
R7年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案(保全計画含む)は市実施で0件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は6件、その他指定管理者による11件の設備等の保守点検・検査委託等を行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	指定管理者による運営が適切に行われるよう、施設管理運営状況の確認を行うとともに、利用者が安全に施設を利用できるよう、必要な施設保全や保守点検等を実施していく。また、市立デイサービスセンターの在り方については検討していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**見直し**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　225

事務事業名称		市立デイサービスセンター維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	維持管理区分		
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1997(H9)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市デイサービスセンター条例、介護保険法、老人福祉法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	安全に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等が実施され、枚方市立デイサービスセンター利用者の心身の健康と福祉の増進が図られること。						
	対象者(受益者)	市立デイサービスセンター利用者/在宅で介護をしている家族						
	現状・課題	安全に利用できる施設への通所により、心身の健康と福祉の増進が図られ、在宅にて介護を継続することができる環境を保つ必要がある。						
	事業の概要	平成18年4月から、指定管理者制度を導入し、指定管理者として社会福祉法人大阪府母子寡婦福祉連合会が管理運営を行っている。 食事や、入浴などの日常生活上の支援や機能訓練を日帰り等で利用できる施設。						
	年間の主な事務	・指定管理者との協議や調整(適宜) ・定期モニタリング等を通じて、適正な管理運営が行われているかの確認。 ・施設の必要な保守や修繕対応。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.17人	0.21人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,307	1,724	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	1,307	1,724	—	—		
歳出 物件費計	2,198	26,346	—	—	32,420	81.3%
歳出計	3,505	28,070	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	2,198	26,346	—	—	32,420	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な修繕、補修工事等を実施する。(市実施分)	回	2 回	3 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	施設の維持管理を行う。
指標	修繕や補修工事等の実施回数(市及び指定管理者実施分)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	回
実績	4	6	―	―	回
算出方法	修繕、補修工事等の実施回数より算出				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	利用者の安全快適な利用環境が保たれる。
指標	利用制限の日数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	日
実績	0	0	―	―	日
算出方法	修繕などで利用者の利用制限を行った日数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

施設の維持補修や指定管理者の管理運営が適正に実施されていることを定期モニタリングなどを通して確認することで安全に利用できる施設への通所により、心身の健康と福祉の増進が図られ、在宅にて介護を継続することができる環境を保つ。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案(保全計画含む)は市実施で2件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は2件、その他指定管理者による16件の設備等の保守点検・検査委託等を行った。
R7年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案(保全計画含む)は市実施で3件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は3件、その他指定管理者による16件の設備等の保守点検・検査委託等を行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、指定管理者による運営が適切に行われるよう、指定管理者運営状況の確認を行うとともに、利用者が安全に施設を利用できるような、必要な施設保全や保守点検等を実施していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　226

事務事業名称		市立特別養護老人ホーム維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	維持管理区分		
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1993(H5)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市立特別養護老人ホーム条例、介護保険法、老人福祉法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	安全に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等を実施され、枚方市立特別養護老人ホーム利用者が心身の健康と福祉の増進が図られること。						
	対象者(受益者)	枚方市立特別養護老人ホーム利用者						
	現状・課題	利用者の心身の健康と福祉の増進が図られ、また安全に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等を実施する必要がある。						
	事業の概要	平成18年4月から、指定管理者制度を導入し、指定管理者として社会福祉法人大阪府母子寡婦福祉連合会が管理運営を行っている。 常時介護が必要で、在宅での生活が困難な人が入所して、日常生活上の支援や介護が受けられる施設。						
	年間の主な事務	・指定管理者との協議や調整(適宜) ・定期モニタリング等を通じて、適正な管理運営が行われているかの確認。 ・施設の必要な保守や修繕対応。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.17人	0.21人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	1,307	1,724	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		1,307	1,724	—	—		
	物件費計		2,198	26,346	—	—	32,420	81.3%
歳出計			3,505	28,070	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			2,198	26,346	—	—	32,420	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な修繕、補修工事等を実施する（市実施分）	回	2 回	3 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	施設の維持管理を行う。
指標	必要な修繕、補修工事等の実施回数（市及び指定管理者実施分）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	回
実績	13	21	―	―	回
算出方法	修繕、補修工事等の実施回数より算出				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	利用者の安全快適な利用環境が保たれる。
指標	利用制限の日数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	日
実績	0	0	―	―	日
算出方法	修繕などで利用者の利用制限を行った日数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

施設の維持補修や指定管理者の管理運営が適正に実施されていることを定期モニタリングなどを通して確認することで、利用者が心身の健康と福祉の増進が図られる環境を保つこと。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案（保全計画含む）は市実施で2件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は11件、その他指定管理者による16件の設備等の保守点検・検査委託等を行った。
R7年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案（保全計画含む）は市実施で3件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は18件、その他指定管理者による16件の設備等の保守点検・検査委託等を行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、指定管理者による運営が適切に行われるよう、施設管理運営状況の確認を行うとともに、利用者が安全に施設を利用できるよう、必要な施設保全や保守点検等を実施していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　227

事務事業名称		総合福祉会館デイサービスセンター維持管理事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	維持管理区分		
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1998(H10)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市デイサービスセンター条例、介護保険法、老人福祉法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	安全に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等を実施され、総合福祉会館デイサービスセンター利用者の心身の健康と福祉の増進が図られている状態。						
	対象者（受益者）	総合福祉会館デイサービスセンター利用者/在宅で介護をしている家族						
	現状・課題	安全に利用できる施設への通所により、心身の健康と福祉の増進を図れ、在宅にて介護を継続することができる。						
	事業の概要	平成18年3月まで枚方市立総合福祉会館デイサービスセンターの運営及び維持管理業務を社会福祉法人四天王寺福祉事業団に委託していた。平成18年4月からは、指定管理者制度を導入し、現在の指定管理者として、社会福祉法人大阪府母子寡婦福祉連合会が管理運営を行っている。（令和5年度～令和9年度の5年間） 食事や、入浴などの日常生活上の支援や機能訓練を日帰り等で利用できる施設。						
	年間の主な事務	・指定管理者との協議や調整（適宜） ・定期モニタリング等を通じて、適正な管理運営が行われているかの確認。 ・施設の必要な保守や修繕対応。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.31人	0.26人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	2,383	2,134	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	2,383	2,134	—	—		
歳出 物件費計	528	204	—	—	0	0.0%
歳出計	2,911	2,338	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）	528	204	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な修繕、補修工事等を実施する（市実施分）	回	1 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	モニタリング等で判明した施設の不具合等について対応する。
指標	修繕、補修工事等の実施回数（市及び指定管理者実施分）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	件
実績	4	1	―	―	件
算出方法	修繕、補修工事等の実施回数より算出				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	―
指標	―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―		―	―	―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

施設の維持補修や指定管理者の管理運営が適正に実施されていることを定期モニタリングなどを通して確認することで安全に利用できる施設への通所により、心身の健康と福祉の増進が図られ、在宅にて介護を継続することができる環境を保つ。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案（保全計画を含む）は市の負担で1件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は3件であった。 総合福祉会館の建築設備等保守管理業務は他の指定管理者が行っており、総合福祉会館デイサービスセンターの指定管理者は必要に応じて按分で費用負担している。
R7年度	修繕等に係る経費で積算金額が、1件30万円以上の事案（保全計画を含む）は市の負担で1件、1件30万円未満を含む指定管理者実施分は0件であった。 総合福祉会館の建築設備等保守管理業務は他の指定管理者が行っており、総合福祉会館デイサービスセンターの指定管理者は必要に応じて按分で費用負担している。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、指定管理者による運営が適切に行われるよう、指定管理者運営状況の確認を行うとともに、利用者が安全に施設を利用できるような、必要な施設保全や保守点検等を実施していく。また、市立デイサービスセンターの在り方については検討していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　234

事務事業名称		楽寿荘維持管理事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2000(H12)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	老人福祉法第20条の7、枚方市立老人福祉センター―楽寿荘条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	楽寿荘利用者が、施設を安心して安全快適に利用することができ、心身の健康と福祉の増進を図っている。						
	対象者（受益者）	楽寿荘利用者						
	現状・課題	楽寿荘を利用する利用者が、安全・快適に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等を実施する必要がある。						
	事業の概要	老人福祉法第20条の7に規定する老人福祉センターとして、施設を市民活動の場として提供するとともに、主に高齢者に対して、健康の増進、教養の向上及びレクリエーション等の事業を行う。また、施設の管理は、直営で実施しており、施設の補修等維持管理も行っている。利用時間は、午前10時から午後8時30分（毎週木曜日及び年末年始は休館）老朽化による改修工事のため、平成22年8月31日より一時休館。23年4月1日にリニューアルオープン。						
	年間の主な事務	・受付業務 ・屋外清掃等業務はシルバー人材センターに委託 ・施設の維持管理 ・教養講座等の開催						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.49人	0.56人	—	—
	再任用	1.00人	1.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	9,094	9,897	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	9,094	9,897	—	—		
歳出	物件費計	22,973	75,180	—	—	78,878	95.3%
歳出計		32,067	85,077	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	1,780	1,467	—	—	1,424	
歳入	市債	8,800	60,000	—	—	63,000	
歳入	その他	29	403	—	—	537	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		10,609	61,870	—	—	64,961	
一般財源（物件費充当分のみ）		12,364	13,310	—	—	13,917	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な修繕、補修工事等を実施する	回	6 回	4 回	— 回	— 回
② 教養講座等の実施	回	152 回	168 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	施設の維持管理を行う。				
指標	必要な修繕、補修工事等の実施回数				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	4	4	4	4	回
実績	6	4	—	—	回
算出方法	修繕、補修工事等の実施回数より算出				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	利用者の心身の健康と福祉の増進が図られる。				
指標	教養講座等の実施回数				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	140	140	140	140	回
実績	152	168	—	—	回
算出方法	教養講座等の実施回数より算出				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	利用者の安全快適な利用環境が保たれる。				
指標	利用制限の日数				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1	1	1	1	日
実績	0	0	—	—	日
算出方法	修繕などで利用者の利用制限を行った日数				

アウトカム②

説明	講座等への参加をきっかけとする利用者の増加。				
指標	利用者数				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	21,000	21,000	21,000	21,000	人
実績	22,474	24,210	—	—	人
算出方法	利用者数により算出				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

施設の維持補修や教養講座等の実施を行うことで、利用者が施設を安心して安全快適に利用することができ、心身の健康と福祉の増進を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	防犯灯とトイレの修繕を行った。 楽寿荘の年間延べ利用者数は22,474人で、前年から増加した。
R7年度	土砂崩れ対策のため斜面の工事等を行った。 楽寿荘の年間延べ利用者数は24,210人で、目標値を達成した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	引き続き、利用者が、安全・快適に施設を利用できるよう必要な施設保全や保守点検を実施する。 また利用者の利便性の向上のため施設予約システムを導入し、令和8年度内に稼働できるようにする。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過				
	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　235

事務事業名称		敬老事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1968(S43)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市民が広く高齢者福祉に関心と理解を深めるとともに、高齢者自ら、生きがいをもって生活できるよう高い意欲を持っている状態。						
	対象者(受益者)	高齢者/高齢者福祉に関心と理解が少ない市民						
	現状・課題	高齢者向けのイベントが少なく、日ごろの楽しみや生きがいを創出する機会が必要。/高齢者を敬愛し、長寿を祝うことにより、市民が広く高齢者福祉に関心と理解を深める機会が必要。						
	事業の概要	毎年9月を高齢者保健福祉月間として啓発イベント等を開催する。 ①「敬老のつどい」を開催 一部:高齢社会憲章朗読、優良老人クラブ・優良ひとり暮らし老人会の表彰、高齢者保健福祉月間啓発標語の特選作品の発表と表彰。 二部:プロによるアトラクション(アトラクションは委託) ②長寿祝品の配付　満年齢で米寿(88歳)の方に長寿をお祝いする記念品を届ける。 ③最高齢者表敬訪問、100歳高齢者祝福事業　市長または市の理事者が最高齢者を訪問し、花束及び記念品を贈呈する。また、100歳を迎える方に市からのお祝い電報(※)及び内閣総理大臣からの祝い状及び記念品を届ける。(※R3年度より。R2年度までは祝い状及び祝い品の贈呈。) ④高齢者保健福祉月間啓発標語の募集　市民に呼びかけて標語を募集し特選・入選作品を決定し、賞状・記念品を贈呈するとともに、敬老のつどいで発表						
	年間の主な事務	・敬老のつどいの開催 ・米寿(88歳)の方への記念品配送手続き ・最高齢者への表敬訪問に係る事務及び特別職の調整 ・100歳の方への祝福電報送付手続き、内閣総理大臣からの祝い状及び記念品配付準備						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.75人	0.48人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	5,766	3,940	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		5,766	3,940	—	—		
	物件費計		5,349	5,489	—	—	6,196	88.6%
歳出計			11,115	9,429	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			5,349	5,489	—	—	6,196	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「敬老のつどい」を開催する。	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② 満年齢で米寿（88歳）の方に長寿をお祝いする記念品を届ける。市長または市の理事者が最高齢者を訪問し、花束及び記念品を贈呈する。1歳を迎える方に市からのお祝い電報及び内閣総理大臣からの祝い状及び記念品を届ける。	回	1 回	1 回	― 回	― 回
③ 高齢者保健福祉月間啓発標語を募集する。	回	1 回	1 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：多くの市民が高齢者福祉に関心を持つ。

指標：「敬老のつどい」の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,486	1,486	1,486	1,486	人
実績	772	607	―	―	人

算出方法：参加者数（延べ人数）

ロジックモデル

アウトプット②

説明：高齢者自らの生活の向上に努める意欲が高まる。

指標：米寿祝品の配付人数及び、最高齢者と100歳高齢者祝福事業の人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2,453	2,767	2,832	3,048	人
実績	2,379	2,573	―	―	人

算出方法：米寿祝品の配付人数及び、最高齢者と100歳高齢者祝福事業の人数

ロジックモデル

アウトプット③

説明：応募作品の中から特選・入選作品を決定し、賞状・記念品を贈呈するとともに、敬老のつどいで発表する。

指標：高齢者保健福祉月間啓発標語の応募件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	67	67	67	67	件
実績	83	33	―	―	件

算出方法：高齢者保健福祉月間啓発標語の応募件数

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：市民の高齢者福祉に対する関心と理解、また、高齢者の生きがいや意欲の向上が図られる。

指標：「敬老のつどい」参加者の満足度
【「満足」と回答した人数／回答人数×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	%
実績	82	80	―	―	%

算出方法：「満足」と回答した人数／回答人数×100

アウトカム②

説明：市民の高齢者福祉に対する関心と理解、また、高齢者の生きがいや意欲の向上が図られる。

指標：「敬老のつどい」参加者の満足度
【「満足」と回答した人数／回答人数×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	%
実績	82	80	―	―	%

算出方法：「満足」と回答した人数／回答人数×100

アウトカム③

説明：市民の高齢者福祉に対する関心と理解、また、高齢者の生きがいや意欲の向上が図られる。

指標：「敬老のつどい」参加者の満足度
【「満足」と回答した人数／回答人数×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	90	90	90	%
実績	82	80	―	―	%

算出方法：「満足」と回答した人数／回答人数×100

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

「敬老のつどい」参加者の満足度で、「満足した」と回答した人は約70%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	①「敬老のつどい」 枚方市総合文化芸術センター関西医大ホールにて開催。 ②長寿祝の配布 満年齢で米寿(88歳)の方2,266人に記念品(飯碗)を送付。 ③最高齢者、100歳高齢者祝福事業 最高齢者(男女)を訪問し花束と記念品を贈呈。100歳を迎える方111人にお祝い電報を送付。 ④高齢者保健福祉月間啓発標語の募集 83作品の応募があり、一般部門、中学生以下部門ともに特選1作品、入選1作品を選定。 各種事業の実施により、高齢者を敬愛するとともに、高齢者福祉への関心と理解を深めることに寄与できた。
R7 年度	①「敬老のつどい」 枚方市総合文化芸術センター関西医大ホールにて開催。 ②長寿祝の配布 満年齢で米寿(88歳)の方2,457人に記念品(飯碗)を送付。 ③最高齢者、100歳高齢者祝福事業 最高齢者(男女)を訪問し花束と記念品を贈呈。100歳を迎える方116人にお祝い電報を送付。 ④高齢者保健福祉月間啓発標語の募集 33作品の応募があり、一般部門、中学生以下部門ともに特選1作品、入選1作品を選定。 各種事業の実施により、高齢者を敬愛するとともに、高齢者福祉への関心と理解を深めることに寄与できた。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	引き続き、同様の手法により事業実施予定	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　236

事務事業名称		枚方市シルバー作業所維持管理事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	維持管理区分		
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1993(H5)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	枚方市シルバー作業所利用者が、施設を安心して安全快適に利用することができ、心身の健康と福祉の増進を図っている。						
	対象者(受益者)	枚方市シルバー作業所利用者						
	現状・課題	枚方市シルバー作業所の利用者が、安全・快適に利用できるよう必要な施設保全や保守点検等を実施する必要がある。						
	事業の概要	【施設概要】高齢者に就業の拠点を提供し、高齢者の生きがいを高めるとともに、その能力をいかした活力ある地域社会作りに寄与することを目的とした施設。 施設設備の維持管理のため、各種保守点検業務等を委託により実施している。						
	年間の主な事務	管理内容により委託の時期がそれぞれ異なるため、契約更新手続きを行う。 ・機械警備：5年契約 ・消防設備点検・エレベーター保守点検・清掃業務・自動扉保守点検・貯水槽水道性総点検：3年契約 ・空気環境測定・害虫駆除・冷暖房設備保守点検；1年契約 ・随時、電灯設備改修実施設計、建築物定期点検、建築設備定期点検、光熱水費の請求など						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.30人	0.31人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,306	2,545	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	2,306	2,545	—	—		
歳出	物件費計	5,101	5,259	—	—	6,958	75.6%
歳出計		7,407	7,804	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	609	671	—	—	637	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		609	671	—	—	637	
一般財源(物件費充当分のみ)		4,492	4,588	—	—	6,321	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な保守点検等を実施する。	件	10 件	11 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	枚方シルバー作業所が適正に維持管理されている。
指標	修繕料、補修工事費に係る当初予算額に対する決算額の割合。

指標	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	0	24	—	—	%
算出方法	決算額/当初予算額×100				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—
指標	—

指標	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

枚方市シルバー作業所利用者が安心・安全に施設利用ができるよう、施設の維持管理を適正に行う。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	施設の維持管理に必要な清掃業務委託やエレベーター保守委託などを行った。安心・安全な施設の利用に寄与できたと考えられる。
R7年度	施設の維持管理に必要な清掃業務委託やエレベーター保守委託などを行うことにより、安心・安全な施設の利用に寄与できたと考えられる。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、施設の維持管理を適正に行う。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　240

事務事業名称		高齢者のICT利用促進事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2021(R3)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	該当なし						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	高齢者等がスマートフォン等のICT機器を活用し、市政情報などを迅速かつ適切に取得しながらいきいきと暮らせる。						
	対象者(受益者)	スマートフォン等を保有していない高齢者、スマートフォン等を保有しているが、十分に活用できていない高齢者						
	現状・課題	スマートフォン等のICT機器を十分に活用できないため、市政情報などの迅速かつ適切な取得が難しい。						
	事業の概要	スマートフォンなどのICT機器の活用は、生活の利便性を向上させるだけでなく、災害などの危機事象発生時においては、市からの情報を迅速に取得して適切な避難行動につなげることができるため、民間事業者などと連携したスマートフォン講座の開催などにより、高齢者のICT活用をソフト面でサポートする体制の充実を図る。						
	年間の主な事務	講座開催の周知(広報掲載)、申込受付、会場や講師との調整等						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.31人	0.23人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,383	1,888	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	2,383	1,888	—	—		
歳出	物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
歳出計		2,383	1,888	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 通信事業者等と連携し、スマートフォン教室などを開催する。	回	44 回	41 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	高齢者等がスマートフォン教室等に興味を持ち参加する。
指標	スマートフォン教室などへの参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	200	200	200	200	人
実績	459	493	―	―	人
算出方法	スマートフォン教室などへの参加者数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	高齢者がスマートフォン等のICT機器を活用し、いきいきと暮らせる。
指標	スマホ教室参加者等へのアンケートで「概ね満足」と回答した人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	70	70	70	70	%
実績	81	78	―	―	%
算出方法	満足、概ね満足と回答した人／アンケート回答者数×100%				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

多くの高齢者がスマートフォン等のICT機器を活用し、市政情報などを迅速かつ適切に取得できるようになる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度は、市内生涯学習市民センター等において44回スマートフォン講座を開催した。459人参加され、約8割の受講者が講座の内容に満足し、高齢者のICT活用に支援できた。
R7年度	令和7年度は、市内生涯学習市民センター等において41回スマートフォン講座を開催した。493人参加され、約8割の受講者が講座の内容に満足し、高齢者のICT活用を支援することができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、通信事業者との連携協定によりスマートフォン講座を実施していくほか、通信事業者の試用期間を利用し、移動型スマートフォン教室を試行実施し、高齢者のスマートフォン等のICT機器活用の促進やデジタルデバイト解消に取り組んでいく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　244

事務事業名称		福祉バス運行委託事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2004（H16）年度		～	事業終了予定：　未定（継続実施含む）			
	根拠法令等	リフト付きバス利用要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質：　—		
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	障害者や高齢者が福祉バスを利用することで、外出や社会参加の機会が増え、健やかに生きがいを持って暮らすことができる手段を提供すること。						
	対象者（受益者）	福祉バスを利用する団体に加入している障害者や高齢者						
	現状・課題	外出するための費用が負担となり、障害者や高齢者の外出する手段、機会が減少している。						
	事業の概要	総合福祉センターの送迎に供しない日を、福祉バスとして利用している。 1. 福祉バス運行日　金曜日、日曜日 2. 送迎バス運行日　火曜日、木曜日						
	年間の主な事務	・各種団体からの申請受付や許可通知などの処理。 ・契約業者との調整。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.26人	0.58人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	1,999	4,761	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	1,999	4,761	—	—		
歳出	物件費計	16,445	17,655	—	—	18,623	94.8%
歳出計		18,444	22,416	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		16,445	17,655	—	—	18,623	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 福祉バスの運行管理。（運行可能日数）	日	103 日	103 日	― 日	― 日

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	福祉バスが運行される。
指標	福祉バスの利用実績件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	40	40	40	40	件
実績	43	40	―	―	件
算出方法	福祉バスの利用実績より算出				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	障害者や高齢者の外出や社会参加が増える。
指標	福祉バスの延べ利用者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	980	980	980	980	人
実績	980	890	―	―	人
算出方法	福祉バスの延べ利用者数より算出				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

福祉バスを利用することで、障害者や高齢者が外出や社会参加の機会が増え、健やかに生きがいを持って暮らすことができる機会が増えること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	延べ980人（43回）の利用があり、昨年度より増加した。今後も障害者や高齢者が外出や社会参加の機会の確保に努めるよう運用していく。
R7年度	43件の利用申請があったが、天候等を理由に利用中止となった団体もあり、最終的には延べ890人（40件）の利用となり、昨年度より減少した。「行財政改革プラン2024」に基づき、新たな事業手法への検討に向け、関係課で課題等の共有を行った。今後も障害者や高齢者の社会参加や外出機会確保に努めるよう運用していく。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	京阪バスの運転手不足によりR8年度末をもって福祉バスの委託事業は終了となる 障害者や高齢者の外出や社会参加の機会を維持する為、R9年度以降の代替手段の検討を行う。	R8年度方向性	見直し

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	見直し	見直し	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　254

事務事業名称		更生保護サポートセンター運営補助事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	3.暮らしに身近な安全が確保されたまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2013(H25)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方・交野地区更生保護サポートセンター支援補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方・交野地区更生保護サポートセンター支援補助金　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	サポートセンターが、その場所を必要とする方に対して永続的に開かれ、今後もいっそう市の更生保護の推進に寄与すること。						
	対象者（受益者）	拠点があることによって充実した活動を行える保護司/罪を犯した人						
	現状・課題	更生のためには本人の意思とともに周囲の協力が不可欠だが、刑期を終えて出所された方を受け止めるための受け皿が少ない。/更生させ、再犯を防止するためには、本人との面談等を通じた信頼関係の構築・居場所づくり・就職援助等、多岐にわたる課題があり、保護司がそれらの活動を安心かつ安全に行える拠点が必要。						
	事業の概要	地域における更生保護の活動拠点として、平成25年10月に設置された枚方・交野地区更生保護サポートセンターの運営を行う枚方・交野地区保護司会を支援する。						
	年間の主な事務	補助金交付 清掃費用契約 防火対象物点検契約						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.15人	0.13人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	1,153	1,067	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	1,153	1,067	—	—		
歳出	物件費計	914	914	—	—	914	100.0%
歳出計		2,067	1,981	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	1,679	914	—	—	598	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		1,679	914	—	—	598	
一般財源（物件費充当分のみ）		0	0	—	—	316	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 更生保護サポートセンターへの補助金交付	千円	914 千円	914 千円	― 千円	― 千円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	更生保護サポートセンターを開所することができる。
指標	開所日数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	245	245	245	245	日
実績	237	258	―	―	日
算出方法	開所日数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	保護司活動を安心かつ安全に行うことができる。
指標	センターにおける電話、来所等の対応件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	245	245	245	245	件
実績	187	193	―	―	件
算出方法	更生保護サポートセンターへの電話対応、来所件数の合計				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

更生保護サポートセンターが犯罪をした者等との面談の場所として活用される。→保護司の担い手の維持

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	更生保護サポートセンターの開所日数、アウトカム指数いずれも目標指数には及ばなかった。
R7年度	更生保護サポートセンターの開所日数、アウトカム指数いずれも昨年度より増加したが、センターにおける対応件数については目標値を下回った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	更生保護活動を円滑に実施するため、今後も引き続き支援を行う。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　257

事務事業名称		骨髄バンクドナー支援事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	6.誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち			性質	健康・医療		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2020(R2)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市骨髄バンクドナー助成金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	骨髄バンクドナー助成金　補助金性質:　その他補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	事業の実施により、骨髄等の提供者及び骨髄バンクのドナー登録者が増え、骨髄移植を必要とする患者が移植を受ける機会を増やす。						
	対象者(受益者)	骨髄バンクドナーになっている、あるいはなる意志のある市民/メインターゲットの市民が従事している。						
	現状・課題	骨髄・末梢血幹細胞提供にあたり、平日の日中に複数回に渡って医療機関へ出向くことが必要であるため、負担が大きい。						
	事業の概要	白血病などの血液疾患の治療に必要となる骨髄・末梢血幹細胞提供者(ドナー)は、提供にあたり、平日の日中に複数回に渡って医療施設に出向くことが必要であるため、ドナー及びドナーが従事している事業所に対し、助成金を交付することにより、骨髄等移植及びドナー登録の推進を図る。						
	年間の主な事務	補助金交付申請受付、補助金交付						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.07人	0.11人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	538	903	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	538	903	—	—		
歳出 物件費計	290	560	—	—	1,050	53.3%
歳出計	828	1,463	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	290	560	—	—	1,050	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 骨髄バンクドナー支援事業に関する周知・啓発を行う。	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② 事業に関する各種啓発冊子等の配布	冊	0 冊	0 冊	― 冊	― 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	骨髄・末梢血幹細胞の提供が完了し、他の補助金等の交付を受けていない方による助成金の申請が増える。
指標	ドナー支援事業申請者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	5	5	5	5	人
実績	2	4	―	―	人
算出方法	ドナー支援事業申請者数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	助成金による支援により、骨髄バンクのドナー登録者が増加する。
指標	市内における骨髄バンクのドナー登録者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,350	1,400	1,450	1,500	人
実績	1,384	1,436	―	―	人
算出方法	市内における骨髄バンクのドナー登録者数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

骨髄等の提供者及び骨髄バンクのドナー登録者が増える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	ドナーに対し、2件の助成金を交付することができた。
R7年度	ドナーに対し、4件の助成金を交付することができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	庁内及び関係各所へのチラシの配付等により周知に努める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　269

事務事業名称		休日歯科急病診療所補助事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	8.安心して適切な医療が受けられるまち				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1987(S62)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方休日歯科急病診療所運営補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方休日歯科急病診療所運営補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	日曜日・祝日・年末年始に歯科急病を発症した場合でも、応急的治療を受けることができる。						
	対象者(受益者)	救急患者/枚方市歯科医師会						
	現状・課題	日曜日・祝日・年末年始に歯科急病を発症した場合、一般の歯医者では診療を行っていないため治療が受けられない。						
	事業の概要	本市の休日における歯科急病診療需要に応えるため、歯科医師会が開設している休日歯科急病診療所を補助する。 ・休日歯科急病診療所は、歯科医師会の補助事業として、歯科急病患者の応急的治療を目的に、日曜日・祝日・年末年始に枚方市医師会館内において開設している。 ・診療時間は午前10時～正午までと午後1時30分～午後5時まで。						
	年間の主な事務	・交付申請(4月) ・交付決定・支払い(5月) ・交付金額確定(3月) ・実地調査(4月) ・清算(5月)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.08人	0.45人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	615	3,694	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		615	3,694	—	—		
	物件費計		19,187	19,219	—	—	20,726	92.7%
歳出計			19,802	22,913	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			19,187	19,219	—	—	20,726	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 交付金額	円	19,186,672 円	19,218,792 円	— 円	— 円
② 実地調査	回	1 回	1 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 日曜日・祝日・年末年始における歯科急病受け入れ体制を確保・維持できる。

指標: 開設割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	—	—	%
算出方法	開設日/日曜日・祝日・年末年始				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 日曜日・祝日・年末年始に歯科急病を発症した場合でも、応急的治療を受けることができる。

指標: 年間受診者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	700	700	700	700	人
実績	686	735	—	—	人
算出方法	年間受診者数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民意識調査で「安心して適切な医療を受けられる環境が整っていると感じますか」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答する人の割合が65%を超える。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	受診者数は見込みを下回る結果であったものの、日曜・祝日・年末年始すべて診療体制を整えており、休日の歯科急病医療体制を確保することで、救急で来院した患者に対して適切な医療を提供することができた。
R7年度	日曜・祝日・年末年始すべて診療体制を整えており、休日の歯科急病医療体制を確保することで、救急で来院した患者に対して適切な医療を提供することができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	今後も継続して、実施する。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　275

事務事業名称		保護司会運営補助事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2009(H21)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方市保護司会運営事務補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	事務局が機能することで、関係組織との協力体制がいっそう円滑に行われるなど保護司会活動が推進され、市の更生保護が推進される。						
	対象者(受益者)	事務局を置くことによって充実した活動を行える保護司/・罪を犯した人 ・罪を犯した人の更生や、非行の防止を援助することにより地域で安心して暮らせる市民全体						
	現状・課題	保護司の多岐にわたる職務を支援する事務局としての立場が必要。/更生援助や非行の防止のためには、保護司だけでなく各更生保護関係組織(更生保護女性会・BBS会・協力雇用主会等)とも密に連携する必要があり、各構成団体を繋ぐ役割を担う事務局としての立場が必要。						
	事業の概要	「社会を明るくする運動」の中心的存在でもある保護司会の運営にかかる事務を円滑に遂行できるよう、枚方市社会福祉協議会を支援する。						
	年間の主な事務	・保護司会の運営に対する補助金の交付 ・社会を明るくする運動への協力 ・再犯防止推進連絡会の立ち上げ						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.16人	0.18人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,230	1,478	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	1,230	1,478	—	—		
歳出 物件費計	8,064	8,216	—	—	8,221	99.9%
歳出計	9,294	9,694	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	8,064	8,216	—	—	8,221	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市保護司会運営事務補助金を交付する。	千円	8,064 千円	8,216 千円	— 千円	— 千円
② 再犯防止推進連絡会の実施	回	0 回	0 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	枚方市社会福祉協議会に事務局が設置される。
指標	保護司の人数(枚方地区のみ)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	93	93	93	93	人
実績	79	79	—	—	人
算出方法	枚方地区で保護司として委嘱されている人数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	保護司会の運営にかかる事務及び社会を明るくする運動の事務が円滑に実施できる。
指標	保護司会活動数(定例会、校区懇談会の開催回数)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12	12	12	12	件
実績	9	10	—	—	件
算出方法	保護司が出席する定例会、校区懇談会開催回数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

再犯防止への市民理解の向上(協力意向アンケート結果の向上<令和5年度:9.6%>)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトカム指標は目標まで近い数字になったものの目標達成まで届かなかった。また、アウトプットにおいても保護司の人数が減少傾向にあり目標に届かなかった。
R7年度	アウトカム指標は目標まで近い数字になったものの目標達成まで届かなかった。また、アウトプットにおいても目標に届かなかった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	保護司が更正保護活動をより円滑に行えるよう、再犯防止連絡会の立ち上げに向け関係機関と調整を行うとともに、枚方市社会福祉協議会が事務を円滑に遂行できるよう補助する。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　282

事務事業名称		民生委員活動推進事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	○		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定（継続実施含む）			
	根拠法令等	民生委員法、児童福祉法、民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金事務補助金交付要綱						
	関係附属機関等	社会福祉審議会　民生委員審査専門分科会						
	関係補助金等	民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金会事務補助金				補助金性質：　制度的補助		
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	・民生委員・児童委員が身近な相談役として、市民の相談に応じ、適切な機関等へつなぐことができ誰がも安心して生活することができている。 ・定数どおりの民生委員・児童委員が配置されている。						
	対象者（受益者）	・各校区に民生委員が配置されることにより、安心して生活することができる市民。 ・厚生労働大臣より委嘱を受けた民生委員・児童委員 ・民生委員候補者を推薦する、各校区コミュニティ協議会や自治会						
	現状・課題	・民生委員・児童委員の担い手が不足しており、校区内で代行民生委員を選任しており、身近に民生委員がいない状態が生じている。 ・候補者を選任することが困難化している。また、短期間で民生委員を辞任される方がいる。						
	事業の概要	・全民生委員の任期が満了となる一斉改選（3年に1度）時に年2回、その他の年については欠員補充に伴い年3回、枚方市民生委員推薦会等を開催し、厚生労働大臣へ民生委員候補者の推薦を行う。 ・民生委員活動費負担金の交付を行う。（地方交付税措置あり） ・枚方市民生委員児童委員協議会の事務局を担う枚方市社会福祉協議会を支援する。 ・枚方市民生委員児童員協議会及び大阪府社会福祉協議会へ福祉制度の勉強会等の各種研修の委託を行う。 ・枚方市民生委員児童委員協議会との共催により「枚方市民生委員・児童委員大会」を開催し、長期勤続者に対する市長表彰を行う。						
	年間の主な事務	・民生委員推薦会及び社会福祉審議会民生委員審査専門分科会の開催 ・枚方市民生委員・児童委員大会の開催 ・民生委員の担い手確保に向けた取組の実施						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	2.17人	1.22人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.08人	0.22人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	8.00人	10.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	16,683	10,015	—	—		
	会計年度任用職員	88	573	—	—		
	特別職非常勤	0	0	—	—		
	附属機関委員	219	124	—	—		
	人件費計	16,990	10,712	—	—		
	物件費計	58,412	61,597	—	—	62,832	98.0%
歳出計		75,402	72,309	—	—		
歳入	国庫支出金	467	467	—	—	505	
	府支出金	0	0	—	—	0	
	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
	市債	0	0	—	—	0	
	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		467	467	—	—	505	
一般財源（物件費充当分のみ）		57,945	61,130	—	—	62,327	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金会事務補助金の交付（12月1日時点の民生委員委嘱者数）	人	463 人	421 人	― 人	― 人
② 民生委員・児童委員及び主任児童委員の研修の機会を設ける	人	121 人	122 人	― 人	― 人
③ 枚方市民生委員・児童委員大会の開催	回	1 回	1 回	― 回	― 回
④ 民生委員推薦会及び民生委員審査専門分科会の開催	回	6 回	4 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：民生委員児童委員協議会事務局が設置される。

指標：―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	10	10	10	10	回
実績	11	10	―	―	回

算出方法：役員会・校区委員長会　開催日数

ロジックモデル

アウトプット②

説明：民生委員・児童委員及び主任児童委員が研修に参加する。

指標：延べ研修参加人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3,000	3,000	3,000	3,000	人
実績	3,309	3,198			人

算出方法：延べ研修参加人数

ロジックモデル

アウトプット③

説明：枚方市民生委員・児童委員が大会に参加する。

指標：参加人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	441	441	441	441	人
実績	353	367			―

算出方法：参加人数

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：民生委員・児童委員の活動が円滑に推進され、市民の福祉が向上する。

指標：民生委員・児童委員の延べ活動件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	11,000	11,000	11,000	11,000	件
実績	9,271	7,784	―	―	件

算出方法：民生委員・児童委員の延べ活動件数

アウトカム②

説明：民生委員としての知識や技術などを習得し、資質が向上する。

指標：研修参加者における、研修に対する満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	97.5	96.7			―

算出方法：研修後、アンケートを実施し、参加者のうち「満足」「やや満足」と回答した割合

アウトカム③

説明：枚方市民生委員・児童委員が日頃の活動に対し、勤続表彰等を受けることで活動の意欲が高まる。

指標：表彰の基準となる任期10年以上の民生委員・児童委員の割合（表彰日時点）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	19.8	19.8	19.8	19.8	%
実績	28.7	30.7			%

算出方法：表彰の基準となる任期10年以上の民生委員・児童委員の割合（表彰日時点）

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

活動を円滑に行い、働く現役世代の民生委員のなり手の増加及び退任者数の減少により、民生委員の充足率を令和10年度一斉改選時に86%とする。
民生委員の資質や意欲向上により、勤続者が増加することで市民との信頼関係が構築され、やりがいを感じることで更なる資質向上を目指す。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	令和6年度末の民生委員・児童委員の充足率は約85%となっており、大幅な増加には至っていない。令和7年度の一斉改選に向けて、民生委員活動の支援の一環として「民生委員なんでもサイト」の運用を開始した。今後も事務局と連携しながら充足率の維持向上に向けて取り組む必要がある。
R7 年度	前年度に比べ、任期10年以上の民生委員・児童委員の割合は増加したが、令和7年度の一斉改選を経て、民生委員・児童委員の充足率は約77%と大幅に減少した。民生委員・児童委員の退任者が多い状況を解消するため、現役民生委員を対象としたアンケート調査や井戸端会議を通じて民生委員の負担などを調査し、今後の充足率を高める取組を設定した。今後も、事務局と連携しながら、民生委員・児童委員のなり手不足解消に向けて、取組を進めていく。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	民生委員・児童委員のなり手不足を解消するため、令和10年度の一斉改選に向け、民生委員活動の負担軽減に向けた取組の推進とともに、モデル校区でのワークショップの開催を通じて、担い手創出を図る。 また、民生委員・児童委員活動の強化推進に資するため、引き続き、民生委員・児童委員大会の開催および研修委託を通じて、民生委員・児童委員の資質及び意欲の向上を図る。	R8年度 方向性	**拡充**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**拡充**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　283

事務事業名称		ハンセン病問題解決に係る啓発事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	11.すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2009(H21)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	ハンセン病問題の解決の促進に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市民や本市職員がハンセン病問題について深く理解し、偏見と差別のない社会が実現することで、ハンセン病回復者等が地域社会から孤立することなく、良好かつ平穏な生活を営むことができるようになる。						
	対象者(受益者)	市民/本市職員						
	現状・課題	ハンセン病に対する誤解や偏見などが残っており、正しい知識を持ち合わせていない市民への啓発。						
	事業の概要	ハンセン病回復者等が地域社会から孤立することなく、良好かつ平穏な生活を営むことができるような社会の構築のため、本市職員及び市民の人権意識の向上を図る。 ハンセン病回復者等に対する偏見と差別のない社会の実現に向けて、市民等を対象とした講演会及び映画会の開催、ちらし・リーフレット等の配布により、ハンセン病問題に関する啓発を行う。						
	年間の主な事務	・講演会・映画会などの啓発イベントの実施 ・啓発冊子の配布						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.10人	0.11人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	769	903	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	769	903	—	—		
歳出 物件費計	20	16	—	—	600	2.7%
歳出計	789	919	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	20	16	—	—	600	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 講演会及び映画会などの啓発事業を実施する。	回	1 回	1 回	― 回	― 回
② 啓発冊子を配布する。	冊	875 冊	481 冊	― 冊	― 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	イベント等に市民等が参加する。
指標	イベント等の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	300	300	300	300	人
実績	388	330	―	―	人
算出方法	イベント等の参加者数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	市民等の人権意識の向上が図られる。
指標	人権意識の向上につながった人の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	64.8	69.4	―	―	%
算出方法	啓発事業来場者アンケートで、「人権意識が向上した」と回答した人の数／回収数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民意識調査で「一人ひとりが人権を尊重し合えていると感じていますか。」という質問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した人は約30%を超える

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	枚方市健康・医療・福祉フェスティバルにて啓発ブースを設置した。 啓発を目的に作成した市民向けリーフレットを新たに作成し、関係課の窓口に設置し市民に配布した。
R7年度	枚方市健康・医療・福祉フェスティバルにて啓発ブースを設置した。 昨年度作成した市民向け啓発リーフレットを増刷し、関係課の窓口に設置し市民に配布した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、啓発を行い、本市職員及び市民の人権意識の向上を図る。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　298

事務事業名称		遺家族援護事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課			区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	非選択的区分	
	総合計画 施策目標	13.平和の大切さを後世に伝えるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定（継続実施含む）			
	根拠法令等	①戦没者及び戦傷病者の妻に対する特別給付金支給法　②戦没者等の遺族に対する特別弔慰金支給法　等						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質：	—	
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	市内すべての弔慰金受給権者が申請を行い、弔慰金を受け取る。						
	対象者（受益者）	戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の請求をしたいという意向を持つ市民						
	現状・課題	先の大戦で公務等のために国に殉じた元軍人、軍属および準軍属に対して、弔慰の意を表すことを目的とした国からの弔慰金を受け取りたい。						
	事業の概要	特別弔慰金、特別給付金等の請求受理・送付業務・戦没者慰霊事業等の連絡業務・その他、援護関係PR業務						
	年間の主な事務	政令による法定受託事務で、申請の受付、府に対する進達事務など。						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.18人	0.70人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	1.05人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,384	5,746	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	2,012	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	1,384	7,758	—	—		
歳出 物件費計	3	98	—	—	180	54.4%
歳出計	1,387	7,856	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	102	159	—	—	180	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	102	159	—	—	180	
一般財源（物件費充当分のみ）	0	0	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 特別弔慰金・特別給付金の申請件数	回	1 回	812 回	— 回	— 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	申請件数はおおむね想定どおりであった。
R7年度	令和7年4月1日より第12回戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の申請が始まり、書類の内容を確認の上、速やかに大阪府に進達した。 国債発行後は、市民に特別給付金と合わせて、448件交付した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	令和7年度から申請受付を開始した第12回特別弔慰金等に対する国債について、発行後、速やかに市民に交付するとともに、令和8年度の新規申請受付分についても滞りなく、処理をする。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　302

事務事業名称		献血推進事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり			細区分	任意的区分		
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します			性質	社会福祉		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定（継続実施含む）			
	根拠法令等	枚方市献血推進事業補助金交付要項						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方市献血推進事業補助金			補助金性質：　事業費補助			
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	事業が継続されることで、年間を通しての継続的な献血量が確保される。						
	対象者（受益者）	市民全般（血液を必要とする市民や、献血者数が減少していることから、献血経験がない・献血思想がない市民に対しても献血推進活動を行っている）						
	現状・課題	血液を必要としているが、安心して輸血を受けられる体制が整っておらず、血液が不足している。 献血についての知識や経験がないことから、献血者数が低下している。						
	事業の概要	枚方市社会福祉協議会が献血推進協議会を設置し、事業計画に基づく献血事業を毎年展開。 京阪枚方市駅、樟葉駅前での街頭キャンペーンをはじめ、校区福祉委員会との連携あるいは高校、大学の学域、事業所、病院、市役所等の職域などの関係機関・団体にも協力を依頼するなど、献血活動を推進。						
	年間の主な事務	・補助金交付 ・献血推進協議会及び研修会への出席 ・夏期及び冬期街頭キャンペーンへの参加						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.08人	0.16人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	615	1,313	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	615	1,313	—	—		
歳出 物件費計	5,224	5,155	—	—	5,286	97.5%
歳出計	5,839	6,468	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）	5,224	5,155	—	—	5,286	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 献血推進協議会の構成団体数	団体	15 団体	15 団体	— 団体	— 団体
② 献血推進事業補助金交付額	千円	5,224 千円	5,155 千円	— 千円	— 千円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：補助金の交付を通して、献血推進協議会による献血事業を推進する。

指標：地域における啓発取り組み回数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	8	8	8	8	回
実績	13	15	—	—	回
算出方法	これまでの実績より算出				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：年間を通しての継続的な献血量が確保される。

指標：採血者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	26,000	26,000	26,000	26,000	件
実績	17,087	19,093	—	—	件
算出方法	これまでの献血者数より算出				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

地域での献血実施回数の向上

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	啓発活動を行い、枚方市駅周辺の商業施設のオープンに伴い一時的に献血ルーム利用者数が増加したものの、採血者数は目標を大きく下回る値となっている。
R7年度	R6年度は樟葉駅前工事の影響により実施できていなかった樟陽駅前での街頭献血を令和7年度より再開したことなどから、街頭献血における採血者数及び全体の採血者数が前年度よりも増加した。しかしながら依然として目標値を下回る値となっている。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	駅前での街頭キャンペーンや啓発活動を行うとともに、各関係機関の協力を得ながら、引き続き献血活動を推進していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　307

事務事業名称		福祉活動・福祉団体等補助事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	枚方市福祉活動・福祉団体等補助金交付要項						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方市福祉活動・福祉団体等補助金　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	当事者同士の情報交換や交流などをすることができ福祉活動が推進される						
	対象者（受益者）	枚方市福祉団体連絡会に加盟する福祉団体						
	現状・課題	遺族会や身体障害者の会など、当事者団体としての活動するにあたり、財源が不足している/						
	事業の概要	地域福祉活動促進を図るため、福祉団体等を支援する。 ①福祉団体助成金 ②福祉団体連絡会助成金 ③ひとり暮らし老人会運営助成金						
	年間の主な事務	・補助金交付						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.05人	0.18人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出	内訳 正職員、再任用、任期付職員	384	1,478	—	—		
	内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
	内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
	内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計	384	1,478	—	—		
	物件費計	5,351	5,267	—	—	5,357	98.3%
歳出計		5,735	6,745	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
	府支出金	0	0	—	—	0	
	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
	市債	0	0	—	—	0	
	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		5,351	5,267	—	—	5,357	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市福祉活動・福祉団体等補助金交付額	千円	5,351 千円	5,267 千円	― 千円	― 千円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	各種福祉団体の円滑な組織運営の支援が図られる。
指標	活動支援している団体数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	10	10	10	10	団体
実績	10	10	―	―	団体
算出方法	補助金交付団体				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	当事者同士の情報交換や交流などをすることができ福祉活動が推進される。
指標	障害者週間啓発キャンペーン 一部、二部参加人数の合計

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	107	107	107	107	人
実績	92	141	―	―	人
算出方法	参加人数の合計※目標は令和5年度実績				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

当事者同士の情報交換や交流などをすることができ福祉活動が推進される

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	ひとり暮らし高齢者の会や障害者(児)団体等、各種福祉団体が円滑な組織運営ができるように、事業を適正に執行した。
R7年度	ひとり暮らし高齢者の会や障害者(児)団体等、各種福祉団体が円滑な組織運営ができるように、事業を適正に執行し、指標は目標値を上回った。 また、包括外部監査にて、補助対象経費の妥当性について指摘を受けたため、対象団体が理解しやすいよう補助対象経費の範囲を明確に示す対応策を枚方市社会福祉協議会と検討し、ガイドラインを設定した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	当事者団体等の活動が活発になるよう福祉団体に意見聴取を行い、今後の事業のあり方について引き続き検討する。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　310

事務事業名称		日本赤十字社事務補助事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2003(H15)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金会事務補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金会事務補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	奉仕団の活動が円滑に推進され、赤十字運動が広く展開されることで、市民の福祉が向上する。						
	対象者(受益者)	拠点・事務局があることによって充実した活動を行える日本赤十字奉仕団/人間の命と健康、尊厳を守る人道の実現をめざす赤十字運動をはじめ、災害救護、救急法普及や健康生活支援などの各種事業の展開が図られることで、市民全体が地域で安心して暮らせる。						
	現状・課題	日本赤十字奉仕団の活動にあたり事務的な支援が必要。						
	事業の概要	日本赤十字社法第7条の規定に基づく枚方市地区の赤十字活動にかかる事務を行う社会福祉協議会を支援する。						
	年間の主な事務	補助金交付						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.08人	0.16人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	615	1,313	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		615	1,313	—	—		
	物件費計		8,813	8,853	—	—	8,877	99.7%
歳出計			9,428	10,166	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			8,813	8,853	—	—	8,877	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 交付金額(日本赤十字社事務補助分)	千円	8,813 千円	8,853 千円	— 千円	— 千円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	日本赤十字奉仕団の活動にあたり事務的な支援が行われる。
指標	部会会議開催回数及び管内研修実施回数の合計

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	14	14	14	14	回
実績	29	38	—	—	回
算出方法	これまでの開催実績数より算出				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	奉仕団の活動が円滑に推進され、赤十字運動が広く展開されることで、市民の福祉が向上する。
指標	奉仕団による延べ活動件数(地域への啓発活動、街頭募金、炊き出しなど)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	13	13	13	13	件
実績	4	3	—	—	件
算出方法	これまでの活動実績数より算出				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人間の命と健康、尊厳を守る人道の実現をめざす赤十字運動の推進を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	アウトプット指標については、目標値を大幅に上回る結果となったが、アウトカムの「奉仕団による延べ活動件数」は目標に届かなかった。
R7年度	アウトプット指標については、目標値を大幅に上回る結果となったが、アウトカムの「奉仕団による延べ活動件数」は目標に届かなかった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、枚方市社会福祉協議会に対する補助を通じて、社会福祉の増進を図る。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　314

事務事業名称		共同募金会事務補助事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2003(H15)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金会事務補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	民生委員協議会・日本赤十字社・共同募金会事務補助金　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	共同募金会の活動が円滑に推進され、募金活動によって集められた募金が、市内のボランティア活動などの助成に充てられることで、市民の福祉が向上する。						
	対象者（受益者）	拠点・事務局があることによって充実した活動を行える共同募金会/募金活動によって集められた募金が、市内のボランティア活動などの助成に充てられることで、市民が地域で安心して暮らせる。						
	現状・課題	共同募金会各事業の多岐にわたる職務を支援する事務局が必要						
	事業の概要	社会福祉法にも位置づけられる「共同募金」について、大阪府共同募金会の定款第20条の規定に基づく本市を1地区とする活動にかかる事務を行う社会福祉協議会を支援する。						
	年間の主な事務	・補助金交付						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.08人	0.11人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	615	903	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	615	903	—	—		
歳出	物件費計	5,547	5,572	—	—	5,587	99.7%
歳出計		6,162	6,475	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		5,547	5,572	—	—	5,587	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 市内募金箱設置箇所数 (市所管施設、社会福祉法人、市内企業等の合計)	件	53 件	47 件	— 件	— 件
② 共同募金会事務補助事業(交付額)	千円	5,547 千円	5,572 千円	— 千円	— 千円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	補助金の交付により、共同募金会の活動が円滑に推進される。
指標	共同募金の総額(赤い羽根共同募金と地域歳末たすけあい募金の合計)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	19,383	19,383	19,383	19,383	千円
実績	15,814	14,512	—	—	千円
算出方法	これまでの共同募金の総額実績より算出				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	募金活動によって集められた募金が、市内のボランティア活動などの助成に充てられることで、市民の福祉が向上する。
指標	助成事業数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12	12	12	12	件
実績	13	12	—	—	件
算出方法	これまでの助成事業実績数より算出				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民からの募金により、市内社会福祉施設やボランティア団体等の助成にあてられる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	補助金の交付により、本市における共同募金会の活動が円滑に行われる環境整備に寄与した。
R7年度	補助金の交付により、本市における共同募金会の活動が円滑に行われる環境整備に寄与し、指標である助成事業数は目標を達成した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、枚方市社会福祉協議会に対する補助を通じて、社会福祉の増進を図る。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　320

事務事業名称		認知症総合支援事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2000(H12)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	共生社会の実現を推進するための認知症基本法、枚方市認知症カフェ設立支援事業補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	枚方市認知症カフェ設立支援事業補助金(介護特会)　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、認知症の容態の変化に応じ、すべての期間を通じて、必要な医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人に対して効果的な支援が行われる体制が構築されること。						
	対象者(受益者)	認知症が疑われる人または認知症の人、その家族/地域住民、医療・介護関係機関等						
	現状・課題	疾患に伴う、生活上での混乱や周囲とのトラブル等の社会問題の発生し、介護者(家族)の身体的負担及び精神的な負担が増大している。						
	事業の概要	①認知症高齢者の行方が分からなくなったときに速やかな連絡先への連絡を目的としたひらかた高齢者sosキーホルダー事業を実施。 ②認知症を正しく理解し見守る認知症サポーターを養成 ③認知症の早期対応を目的として、認知症の人や家族に対して、医療と介護の専門職によるチーム(認知症初期集中支援チーム)が個別訪問による支援を実施 ④認知症(疑い含む)の症状が発生した場合に、いつ、どこで、どのような医療や介護サービスを受ければよいかを記載したガイドブックの認知症ケアパスを配布 ⑤地域における認知症カフェ設置を推進するため、設立支援事業として、スタッフの研修等に係る費用を助成。継続支援として、認知症カフェ登録による周知等を行う。 ⑥「認知症施策推進計画」を策定するために、地域住民が基本法について理解を深めるための勉強会、認知症の理解促進のための普及啓発イベント、認知症の人や家族等の意見を丁寧に聴く場の設置、管内の企業が基本法の趣旨を踏まえ認知症の人や家族への理解を深めるための勉強会を行う。 ⑦40歳以上(介護保険被保険者)を対象に、デジタルツールを活用した脳の健康度測定を実施することにより、自身の脳の健康に関心をもつきっかけづくりとするとともに、認知機能低下が疑われる方を把握し、介護予防事業への案内等、社会・医療資源につなぐ。						
	年間の主な事務	・市公式SNS及び広報での情報発信 ・認知症関連業務に係る会議の出席 ・関係団体との調整 ・各事業に係る事務手続き						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.97人	0.96人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.05人	0.07人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	15,145	7,881	—	—		
		会計年度任用職員	14	110	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		15,159	7,991	—	—		
	物件費計		31,041	17,300	—	—	34,170	50.6%
歳出計			46,200	25,291	—	—		
歳入	国庫支出金		8,781	1,324	—	—	63,145	
	府支出金		3,409	662	—	—	30,567	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		2,271	642	—	—	7,332,637	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			14,461	2,628	—	—	7,426,349	
一般財源(物件費充当分のみ)			16,580	14,672	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 認知症サポーター養成講座の実施回数	回	39 回	35 回	— 回	— 回
② 認知症カフェ設立支援事業補助金交付件数	件	0 件	0 件	— 件	— 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明: 介護知識や負担軽減等の相談ができる。

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	12,000	13,000	14,000	15,000	件
実績	19,831	20,168	—	—	件

算出方法: 介護・医療に関する相談件数

ロジックモデル

アウトプット②

説明: 徘徊高齢者の早期発見の可能性が高まる。

指標: ひらかた高齢者sosキーホルダーの配布数(平成27年度からの累計数)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	11,000	12,000	13,000	14,000	個
実績	10,972	11,498	—	—	個

算出方法: ひらかた高齢者sosキーホルダーの配布数(平成27年度からの累計数)

ロジックモデル

アウトプット③

説明: 認知症サポーターが養成される。

指標: 認知症サポーター養成人数(累計)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	30,039	31,000	32,000	33,000	人
実績	30,039	30,951	—	—	人

算出方法: 認知症サポーター養成人数(累計)

ロジックモデル

アウトプット④

説明: 補助金の交付により、認知症カフェ運営団体が増える。

指標: 認知症カフェ登録団体数(当該年度末登録数)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	15	15	15	15	件
実績	19	19	—	—	件

算出方法: 認知症カフェ登録団体数(当該年度末登録数)

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 地域包括支援センターの総合相談を通じて各種支援を受けることができる。

指標: 高齢者人口のうち、地域包括支援センターの総合相談利用・支援を受けた人の割合。
【総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7.6	7.6	7.6	7.6	%
実績	8.93	9.1	—	—	%

算出方法: 総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100

アウトカム②

説明: 地域包括支援センターの総合相談を通じて各種支援を受けることができる。

指標: 高齢者人口のうち、地域包括支援センターの総合相談利用・支援を受けた人の割合。
【総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7.6	—	7.6	7.6	%
実績	8.9	9.1	—	—	%

算出方法: 総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100

アウトカム③

説明: 地域包括支援センターの総合相談を通じて各種支援を受けることができる。

指標: 高齢者人口のうち、地域包括支援センターの総合相談利用・支援を受けた人の割合。
【総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7.6	7.6	7.6	7.6	%
実績	8.9	9.1	—	—	%

算出方法: 総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100

アウトカム④

説明: 地域包括支援センターの総合相談を通じて各種支援を受けることができる。

指標: 高齢者人口のうち、地域包括支援センターの総合相談利用・支援を受けた人の割合。
【総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7.6	7.6	7.6	7.6	%
実績	8.9	9.1	—	—	%

算出方法: 総合相談対応件数(実人数)/高齢者人口×100

ロジックモデル

アウトプット⑤							
説明	40歳以上の介護保険被保険者が脳の健康度集団測定を受ける。						
指標	脳の健康度集団測定者数						
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	500	500	500	500	人
	実績	418	410	—	—	人
	算出方法	のうKNOW測定者数				

アウトカム⑤							
説明	認知機能低下が疑われる方を早期に発見し、医師や地域包括支援センター等の社会・医療資源につなげることができる。						
指標	社会・医療資源につながった人数						
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	150	150	150	150	人
	実績	149	196	—	—	人
	算出方法	測定実施日に医師の助言や地域包括支援センター等の個別相談を受けた人数				

ロジックモデル

アウトプット⑥							
説明	自身の脳の状態に関心をもつきっかけとするため、65・68・71歳の市民に認知症に関する案内文を送付する。						
指標	脳の健康度個別測定案内文通知数						
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	13,500	13,500	13,500	13,500	人
	実績	12,742	12,611	—	—	人
	算出方法	案内文通知者数				

アウトカム⑥							
説明	「安心」の獲得や認知症に対する意識向上、生活を改善する行動変容につなげるため、のうKNOWの自己測定をする。						
指標	案内文通知数のうち、のうKNOWで自己測定した人の割合。						
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標	15	16	17	18	%
	実績	12	13	—	—	%
	算出方法	【測定件数(実人数)/通知数×100】				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

認知症カフェの新規登録、認知症サポーター養成講座を継続して実施し、講座の際にはケアパスを配付。また、高齢者SOSキーホルダーの周知と配付を引き続き行うことで、各指標における活動結果が増加傾向にあることから、本事業について一定の効果を取得する。
のうKNOWを活用することにより、安心の獲得や、認知症に対する意識向上、生活を改善する行動変容につなげる。
認知機能低下が疑われる方を早期に発見し、医師や地域包括支援センター等の社会・医療資源につなげる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	認知症カフェが1件増加した。認知症サポーター養成講座を継続して実施し、講座の際にはケアパスを配付している。また、高齢者SOSキーホルダーの周知と配付を引き続き行った。その他、令和6年度においては地域包括支援センターや医療機関と協働し認知症初期集中支援チームにかかる啓発動画を作成した動画を用いて普及啓発を行った。各指標における活動結果が増加傾向にあることから、本事業について一定の効果があると考えられる。 「新しい認知症観」の獲得に向けた普及啓発や認知症当事者の声を聞くことにより、認知症施策推進計画策定の準備を進めることができた。 のうKNOWを活用した脳の健康度測定を実施することにより、認知症の理解促進・普及啓発・認知機能低下が疑われる方の早期発見を実施することができた。また、医師会等と連携することにより社会・医療資源の整備を推し進めることができた。
R7年度	認知症サポーター養成講座を継続して実施し、講座の際にはケアパスを配布している。また、高齢者SOSキーホルダーの周知と配布を引き続き行った。 令和6年度より実施している認知症施策推進計画に係る策定準備支援事業補助金を活用し、認知症の方や家族の方の意見を丁寧に聴く場の設置や地域住民が基本法について理解を深めるための勉強会の実施、認知症の理解促進のための普及啓発イベントの開催、管内の企業が基本法の趣旨を踏まえ、認知症の人や家族等への理解を深めるための勉強会の開催を行い、認知症施策推進計画策定に向け取り組んだ。 また、地域包括支援センターや医師会等の関係機関と連携し、認知症の普及啓発や認知症当事者・家族への支援を実施した。認知症カフェ設立支援事業補助金は令和6年度に引き続き実績がなく、補助事業のあり方等について検討する必要がある。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	引き続き、各事業を推進していくが、実績が低迷している事業については、見直しを検討する。 また、令和8年度も認知症施策推進計画策定に向けて、認知症施策推進計画に係る策定準備支援事業補助金を活用し、認知症の方や家族の方の意見を丁寧に聴く場の設置を行うなど、計画に反映していけるよう取組みを行う。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　571

事務事業名称		公的介護施設等整備補助事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2013(H25)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市公的介護施設等整備補助金交付要綱						
	関係附属機関等	枚方市介護保険施設等整備審議会						
	関係補助金等	公的介護施設等整備補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	ひらかた高齢者保健福祉計画21に基づく施設整備を促進することで、高齢者が安全・安心に、必要な施設サービスを受けることができている。						
	対象者(受益者)	公的介護施設等の整備事業者/介護保険施設等の入所・利用者						
	現状・課題	施設整備費用が負担となり、施設入所・利用を希望する高齢者のニーズに応えることができない。/						
	事業の概要	ひらかた高齢者保健福祉計画21に基づく整備を行う事業者に対し、補助金を交付することにより、高齢者の安全・安心な生活を確保するための公的介護施設等の基盤整備を行うもの。						
	年間の主な事務	・枚方市介護保険施設等整備審議会にて採択された法人に対し、意向調査・協議等を実施し、補助金の交付を行うことで公的介護施設整備等の基盤整備を行う。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.63人	0.70人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	10.00人	8.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,843	5,746	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	209	143	—	—		
	人件費計		5,052	5,889	—	—		
	物件費計		315,533	109,896	—	—	130,180	84.4%
歳出計			320,585	115,785	—	—		
歳入	国庫支出金		13,491	4,400	—	—	7,730	
	府支出金		301,902	78,611	—	—	95,565	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	20,000	—	—	20,000	
	その他		349	1,676	—	—	1,676	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			315,742	104,687	—	—	124,971	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	5,209	—	—	5,209	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ひらかた高齢者保健福祉計画21に基づく公的介護施設等整備補助金の交付事業者数（ただし、令和3年度から第8期計画で新たに設定）	事業者	0 事業者	3 事業者	— 事業者	— 事業者

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：公的介護施設等の整備が促進される。（介護施設の基盤整備）

指標：公的介護施設等整備補助金の交付により整備を行ったサービスの整備達成率（ただし、令和6年度から第9期計画、令和9年度から第10期計画で新たに設定）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	85	100	100	—	%
実績	50	43	—	—	%

算出方法：ひらかた高齢者保健福祉計画21にて計画されている施設整備数に対しての整備達成率（当該年度整備数/計画内整備予定サービス数）

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—

算出方法：—

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

枚方市高齢者保健福祉計画21に基づく、施設整備が計画通りに行われる

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	ひらかた高齢者保健福祉計画21（第9期）に基づき、令和6年度より公募選定を開始し、介護老人福祉施設（10床）、介護医療院（1か所50床）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護（2か所）を採択した。整備を行う事業者に対する補助金は令和7年度より交付予定となっている。なお、資材高騰や人材不足などの影響により、3施設については応募なしとなった。
R7年度	ひらかた高齢者保健福祉計画21（第9期）に基づき、令和6年度公募選定により採択した、介護医療院（1か所50床）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護（2か所）に対し補助金を交付し、整備を行った。令和6年度に応募がなかった3施設および令和7年度整備予定の1施設について、令和7年度に公募を行ったが、応募がなかったため未整備となっている。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	これまでの整備状況に加えて、中長期的な地域の人口動態や介護ニーズの見込み等を踏まえた介護保険施設等の整備に向けて、令和9年度から令和11年度を計画期間とする、ひらかた高齢者保健福祉計画21（第10期）を策定する。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	拡充	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　572

事務事業名称		シルバー人材センター事業費補助事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部	課:　健康福祉政策課			区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1980(S55)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市補助金等交付規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	高年齢者能力活用推進事業補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	就業の場を通じて、高齢者の生きがいづくりと社会参加が促進される。						
	対象者(受益者)	枚方市シルバー人材センターの会員						
	現状・課題	シルバー人材センター登録会員の確保、会員の就業率の向上が必要である。						
	事業の概要	枚方市補助金等交付規則に基づき補助金を交付する。 センターの設置目的である高齢者が働くことを通じた生きがいづくり、さらなる地域社会の活性化への貢献につなげていくことを効果的に支援していくため、シルバー人材センターの自主事業に対する経費の一部を補助する。						
	年間の主な事務	・補助金交付申請(4月上旬)、交付決定(4月中旬)、交付請求(4月下旬)、概算払い(5月下旬) ・補助金事務報告(4月上旬)、交付額確定及び清算(4月下旬)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.20人	0.25人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,538	2,052	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	1,538	2,052	—	—		
歳出 物件費計	4,017	4,017	—	—	4,017	100.0%
歳出計	5,555	6,069	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	4,017	4,017	—	—	4,017	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市シルバー人材センターの取り組みを支援するため、補助金を交付する。	事業	2 事業	2 事業	— 事業	— 事業

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	枚方市シルバー人材センターの取り組みが充実する。
指標	会員の就業率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	70	70	70	70	%
実績	74.9	76.3	—	—	%
算出方法	就業会員数／会員数×100				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	高齢者の生きがいづくりや社会参加が促進する。
指標	枚方市シルバー人材センターの各年度未登録会員数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2,500	2,550	2,600	2,650	人
実績	1,772	1,733	—	—	人
算出方法	未登録会員数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

高齢者の知識や技能を活かした事業を通して、センターの設置目的である高齢者が働くことを通じた生きがいづくり、さらなる地域社会の活性化への貢献につなげていく。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	「補助金の見直しに関する方針」に基づく団体運営補助の廃止により、令和元年度から事業費補助となった。高齢者の知識や技能を活かした事業を通して、センターの設置目的である高齢者が働くことを通じた生きがいづくり、さらなる地域社会の活性化への貢献につなげていくことを効果的に支援する。令和6年度は、「遊休地活用事業」「幅広い世代の居場所づくり事業」の軽費の一部を補助した。
R7年度	「補助金の見直しに関する方針」に基づく団体運営補助の廃止により、令和元年度から事業費補助となった。高齢者の知識や技能を活かした事業を通して、センターの設置目的である高齢者が働くことを通じた生きがいづくり、さらなる地域社会の活性化への貢献につなげていくことを効果的に支援する。令和7年度も引き続き、「遊休地活用事業」「幅広い世代の居場所づくり事業」の経費の一部を補助した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き補助事業の進捗管理を行うとともに、適宜効果検証を行っていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　573

事務事業名称		老人クラブ育成補助事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1963(S38)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市老人クラブ等活動事業等補助金交付要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	1.老人クラブ活動補助金 2.老人クラブ連合会事務費補助金　　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	より多くの高齢者が老人クラブ等の社会奉仕や健康増進等の諸活動に参加することで、住み慣れた地域で健全で豊かな生活を送ることができている。						
	対象者(受益者)	各単位老人クラブ、老人クラブ連合会、ひとり暮らし老人会に加入している高齢者						
	現状・課題	老人クラブ会員数が減少している。住み慣れた地域でいきいきと暮らし、人とのつながりをもつことができる場の確保が必要。						
	事業の概要	各単位老人クラブ、老人クラブ連合会、ひとり暮らし老人会連絡会からの活動補助金申請等、老人クラブ連合会事務経費補助金申請等を受け、活動予定月数、会員数等に応じた補助金を交付し、年度末に各実績報告を受け、精算等を行う。また、国に対し補助金申請を行い補助金交付を受ける。						
	年間の主な事務	各補助金交付申請の審査及び補助金交付、実績報告の審査及び精算、監査等						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.40人	0.27人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,075	2,216	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		3,075	2,216	—	—		
	物件費計		17,273	17,806	—	—	19,334	92.1%
歳出計			20,348	20,022	—	—		
歳入	国庫支出金		5,331	5,499	—	—	5,893	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			5,331	5,499	—	—	5,893	
一般財源(物件費充当分のみ)			11,942	12,307	—	—	13,441	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 老人クラブ、老人クラブ連合会、ひとり暮らし老人会連絡会の取り組みを支援するため、補助金を交付する。	件	153 件	146 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	老人クラブ、老人クラブ連合会、ひとり暮らし老人会連絡会が、社会奉仕や健康増進等の諸活動を実施する。
指標	老人クラブ等が行った社会奉仕や健康増進等の活動月数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2,000	2,000	2,000	2,000	月
実績	1,812	1,728	—	—	月
算出方法	老人クラブ等が行った社会奉仕や健康増進等の活動月数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	多くの高齢者が、住み慣れた地域で健全で豊かな生活を送ることができる。
指標	補助金交付申請時の老人クラブ会員数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	9,000	9,000	9,000	9,000	人
実績	7,664	7,352	—	—	人
算出方法	補助金交付申請時の老人クラブ会員数				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

より多くの高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし、人とのつながりをもつことができる場所が確保される。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	高齢者人口の増加に対比すると会員数は減少していることから、引き続き取り組みを続けていく必要がある。
R7年度	高齢者人口の増加に対比すると会員数は減少の一途をたどっている。補助金申請書類が煩雑なことを理由に申請しないクラブもあるため、令和7年度より、申請書類の簡素化を図り、広報での周知も行った。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き補助金を交付することにより、老人クラブ、老人クラブ連合会、ひとり暮らし老人会連絡会の取り組みを支援する。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　589

事務事業名称		ちびっこ広場管理事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	24.まちなかのみどりを育てるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	枚方市ちびっこ広場設置及び管理要綱						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	底地管理している民地のちびっこ広場と集会所付き小規模公園を適正に管理し、幼児・児童の安全で楽しい遊び場の提供と、地域住民交流の支援を図る。						
	対象者（受益者）	ちびっこ広場と小規模公園を利用する幼児・児童や地域住民/ちびっこ広場の土地所有者（市との賃貸借契約により、固定資産税が免除されているため） 集会所付き小規模公園を利用する自治会（小規模公園内に行政財産の目的外使用として自治会館を設置しているため）						
	現状・課題	広場を利用しており、広場に対する要望があるが、どこに相談していいかわからない。						
	事業の概要	「ちびっこ広場（民地のみ）」と「集会所付小規模公園」について、地元住民や自治会等との調整を図りながら、要望等に基づく固定資産税非課税手続き、行政財産の目的外使用許可、安全確保のためのフェンスの改修等を行うもの。 なお、遊具等の維持管理については公園所管部署が行う。						
	年間の主な事務	固定資産税非課税手続き、行政財産の目的外使用許可、安全確保のためのフェンスの改修等						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.07人	0.13人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	538	1,067	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	538	1,067	—	—		
歳出 物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
歳出計	538	1,067	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）	0	0	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 固定資産税非課税手続き	件	8 件	8 件	— 件	— 件
② 行政財産の目的外使用許可	件	13 件	13 件	— 件	— 件
③ 安全確保のためのフェンスの改修等	件	0 件	0 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					—
	実績					—
	算出方法	—				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—					
指標	—					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					—
	実績					—
	算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

幼児・児童の安全で楽しい遊び場の提供と、地域住民交流の支援を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	ちびっこ広場や集会所付き小規模公園について、固定資産税非課税措置のための申請および行政財産目的外使用許可の申請を受け付け適切に管理した。
R7年度	ちびっこ広場や集会所付き小規模公園について、固定資産税非課税措置のための申請および行政財産目的外使用許可の申請を受け付け適切に管理した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、適正管理に努める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　702

事務事業名称		社会福祉審議会(本審)運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　健康福祉部		課:　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2014(H26)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市社会福祉審議会条例、枚方市社会福祉審議会規則						
	関係附属機関等	社会福祉審議会(本審)						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	円滑に事務を進められる						
	対象者(受益者)	審議会の開催により、社会福祉が推進され、福祉が向上する市民						
	現状・課題	・円滑に事務を進める必要がある。						
	事業の概要	学識経験者、社会福祉や児童福祉の専門家、市民団体からの推薦者等で構成される「枚方市社会福祉審議会」を開催する。審議会の委員の定数は19人以内で、任期は3年。(委員を増員する場合その他特別の事情がある場合にあっては、3年以内)なお、各福祉分野について、専門的に調査審議するための専門分科会及び部会を設置。						
	年間の主な事務	・審議会委員の委嘱 ・審議会の開催 ・会議録の作成及び公開						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.31人	0.32人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	47.00人	66.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	2,383	2,627	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	228	114	—	—		
歳出 人件費計	2,611	2,741	—	—		
歳出 物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
歳出計	2,611	2,741	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 審議会の開催	回	2 回	1 回	— 回	— 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	前年度に引き続き、通常の参集型に加え、オンラインによる会議の開催も可能となり、会議の方式が広がった。
R7年度	社会福祉審議会の開催及び委員の一斉改選がR8年度より行われることから、委嘱に向けた手続きを実施した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	今後も継続して、担当課において各種調査審議及び事業の進捗管理を適切に行うため、本審及び各分科会を開催する。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　703

事務事業名称		地域福祉計画推進事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	29.市民との情報の共有化を進めます				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2014(H26)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市社会福祉審議会条例、枚方市社会福祉審議会規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	課題を計画的・総合的に解決していくため地域福祉計画を策定し、計画に基づき施策等を進めていき、地域福祉が推進される 住民の間で情報が共有され、地域福祉活動がいっそう盛んになる						
	対象者(受益者)	計画の推進や、審議会の開催により、市民、事業者など、地域福祉に関係する方にとって、地域福祉が向上することとなる。/計画の進行管理の一環として行う「地域福祉セミナー」の参加者である、主に地域で福祉活動を行う住民や関係者など						
	現状・課題	だれもが住みなれた地域で安心して暮らしていける地域共生社会の体制整備が不十分/地域福祉活動に関する情報提供や共有の場がほしい						
	事業の概要	学識経験者、地域福祉の専門家、市民団体からの推薦者等で構成される「枚方市社会福祉審議会地域福祉専門分科会」を開催する。分科会では主に社会福祉法第107条に基づく市町村地域福祉計画の策定や進行管理等を審議する。						
	年間の主な事務	・枚方市社会福祉審議会　地域福祉専門分科会の開催 ・会議録の公表						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.82人	0.47人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.05人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,304	3,858	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	14	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	6,318	3,858	—	—		
歳出	物件費計	50	30	—	—	50	60.0%
歳出計		6,368	3,888	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		50	30	—	—	50	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 審議会開催回数	回	4 回	2 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	枚方市社会福祉審議会地域福祉専門分科会での審議等を経て、令和7年3月に枚方市地域福祉計画(第5期)を策定した。 また、地域福祉セミナーを開催し、参加した市民に対して地域での活動実践事例などを紹介することで、地域福祉について周知するきっかけづくりができた。
R7年度	枚方市地域福祉計画(第5期)の進行管理を行うため、計画に掲げている取組に関連する事業の設定を行った。 地域福祉セミナーは、「地域活動の担い手を増やすこと」や「新たに地域福祉計画に包含した地方再犯防止推進計画」に関するテーマを設定し年2回開催するなど、地域福祉の推進に取り組んだ。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	枚方市地域福祉計画(第5期)に基づき、関連事業等の進捗管理や評価をおこない、枚方市の地域福祉推進に取り組む。 地域福祉セミナーは引き続き市民が地域福祉に関心を持つような内容で企画・開催し、地域福祉の推進に取り組む。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　730

事務事業名称		ひらかたポイント事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	6.計画の推進に向けた基盤づくり				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	30.市民による活発なまちづくり活動を支援します				性質	健康・医療	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○	○		
	事業期間	事業開始：　2018(H30)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	ひらかたポイントシステム(情報発信、ポイント利用(貯める・使う))の活用により、ターゲットが健康分野などの市事業等に興味を持ち積極的に行動している状況を形成し、ひいてはターゲットの健康増進や社会貢献活動等の推進に寄与している状態。						
	対象者(受益者)	健康・子育て・長寿など市が重点的に進める施策の対象者/社会貢献活動に取り組む市内企業・各種公益活動団体等(市内協力店を含む)						
	現状・課題	健康増進や社会貢献活動等に対して無関心または一定の関心はあるが、契機がなく積極的な行動に至れていない。/社会貢献活動に取り組む市内企業・各種公益活動団体等が、周知やポイントのシステムを独自に構築するのは難しい。						
	事業の概要	平成30年度から委託により事業を開始し、健康・子育て・高齢者・アンケート・ボランティア等の分野に関する市事業等に参画した市民に対してポイントを付与し、市内協力店でそのポイントを利用(貯める・使う)できる制度を構築し運用してきた(平成31年1月15日運用開始)。令和2年度にカード作成やカード読取端末のコスト負担が大きい非接触型ICカードを用いたシステムを改修し、令和3年4月からはQR コードを用いたスマホアプリとカードで運用している。また、健康分野を拡充し、市民の健康づくりに関する取り組みを「後押し」する一助として実施している。						
	年間の主な事務	・ひらかたポイント利用者登録に係る窓口対応 ・ひらかたポイント制度システム構築・運営業務委託業者との連絡調整 ・ひらかたポイント付与事業実施課との連絡調整						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.90人	1.27人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.76人	0.68人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	(千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,919	10,425	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	921	1,521	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	7,840	11,946	—	—		
歳出	物件費計	42,817	31,726	—	—	32,950	96.3%
歳出計		50,657	43,672	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	50	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		50	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		42,767	31,726	—	—	32,950	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 協力店の拡大	店舗	511 店舗	486 店舗	— 店舗	— 店舗
② 健(検)診等の健康増進等の行動促進を後押しするポイント付与事業の実施・充実	事業	44 事業	47 事業	— 事業	— 事業

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル アウトプット①

説明	ひらかたポイント制度の利用者が増える
指標	ひらかたポイント制度の利用者登録数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	75,000	80,000	85,000	90,000	人
実績	78,251	83,565	—	—	人
算出方法	3月末現在のひらかたポイント制度の利用者登録数				

ロジックモデル アウトプット②

説明	ひらかたポイントアプリ利用者が増える
指標	ひらかたポイントアプリ利用者登録数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	28,000	33,000	38,000	43,000	人
実績	30,642	37,006	—	—	人
算出方法	3月末現在のひらかたポイントアプリの利用者登録数				

ロジックモデル アウトプット③

説明	ひらかたポイント制度利用者の検診受診等の健康増進等の行動促進を後押しする。
指標	健康増進に係る主な付与事業の付与ポイント数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	48,000	50,000	52,000	54,000	千ポイント
実績	48,902	53,858	—	—	千ポイント
算出方法	健康増進に係る主な付与事業(1事業以上)参加者へのポイント付与数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	ターゲットが市事業等に積極的に参画する中で、ひらかたポイントシステム(情報発信、ポイント付与・使用・受取)が利便性・多様性を備え、有益に活用されている。
指標	ポイント利用率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	45	49	52	56	%
実績	46	48	—	—	%
算出方法	利用ポイント／発行ポイント×100				

アウトカム②

説明	ターゲットが市事業等に積極的に参画する中で、ひらかたポイントシステム(情報発信、ポイント付与・使用・受取)が利便性・多様性を備え、有益に活用されている。
指標	ポイント利用率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	45	49	52	56	%
実績	46	48	—	—	%
算出方法	利用ポイント／発行ポイント×100				

アウトカム③

説明	ポイント付与が検診受診等の健康増進等の行動促進の後押しとして寄与し、ひらかたポイント制度利用者が健康増進等の活動に取り組んでいる。
指標	健康増進に係る主な付与事業(1事業以上)参加者へのポイント付与人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	37,000	40,000	43,000	46,000	人
実績	37,863	40,027	—	—	人
算出方法	健康増進に係る主な付与事業(1事業以上)参加者へのポイント付与人数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

ひらかたポイントシステム(情報発信、ポイント利用(貯める・使う))の活用により、ターゲットが健康分野などの市事業等に興味を持ち積極的に行動し、健康増進等の活動に取り組んでいる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	ポイント利用率、健康増進に係る主な付与事業(1事業以上)参加者へのポイント付与人数ともに目標を上回った。要因としては、令和6年度にひらかたポイントアプリに歩数連携機能を追加したことで利便性が向上し、より手軽にウォーキングに取り組む利用者が増加したことによるものである。 令和7年度にはひらかたポイントアプリに新機能を追加し、更なる利用者の獲得と健康増進の推進に取り組んでいく。

R7 年度	ひらかたポイント制度の利用登録者数、アプリ利用登録者数ともに目標を上回った。要因としては、ポイント有効期限の表示などアプリ画面の視認性向上に取り組むとともに、「シニアおでかけスタンプwithスマホ」の開始をはじめ、スマートフォンアプリを活用した健康増進施策を推進したこと等があげられる。令和8年度には、アプリへの移行が進んでいない対象者へのサポート体制を強化するため、各支所等において定期的に出張サポート窓口を開設する等、アプリインストールの支援体制の強化を図る。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	ウォーキングや健康教室などを通した市民の健康づくりに向けて、幅広い世代がひらかたポイントを活用できる取り組みの推進を図るとともに、各種イベントへのブース出展や出前講座の開催などの周知活動により更なる導入及び利用促進を図る。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　865

事務事業名称		健康福祉政策課運営事務						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　不明		～		事業終了予定：　未定（継続実施含む）		
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質：　—		
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営を円滑に行う。						
	対象者（受益者）	課職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	市議会対応、部の予算・決算処理、事務事業・公約施策等の取りまとめなど健康、長寿、医療及び福祉に係る施策全般の調整、社会福祉審議会の運営に関する委員委嘱・報酬支払い、寄付金の受付、健康福祉部及び健康福祉政策課の照会回答取りまとめ、庶務事務など。						
	年間の主な事務	・市議会対応、部の予算・決算処理、事務事業・公約施策等の取りまとめ ・健康、長寿、医療及び福祉に係る施策全般の調整 ・社会福祉審議会の運営に関する委員委嘱・報酬支払い、寄付金の受付 ・健康福祉部及び健康福祉政策課の照会回答取りまとめ						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	1.61人	1.83人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.47人	0.37人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	12,378	15,022	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	653	908	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	13,031	15,930	—	—		
歳出	物件費計	913,767	917,187	—	—	980,179	93.6%
歳出計		926,798	933,117	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	24,577	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	1,583,090	1,562,368	—	—	1,563,005	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		1,607,667	1,562,368	—	—	1,563,005	
一般財源（物件費充当分のみ）		0	0	—	—	0	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ―					

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	―					
指標	―					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					―
	実績					―
	算出方法	―				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	―					
指標	―					
		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					―
	実績					―
	算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

―

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	庁内外との連絡調整、運営・庶務事務について、適正に執行した。
R7年度	庁内外との連絡調整、運営・庶務事務について、適正に執行した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	継続して円滑に運営事務及び庶務事務を執行していく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　964

事務事業名称		介護職の魅力発信事業（介護人材確保推進事業）						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	9.高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2023（R5）年度　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	該当なし						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	・未来を担う子ども世代が介護や介助職種への興味や関心、知識をもち、ひいては介護業務の魅力を理解し、「将来なりたい職業」の一つとして認識している状態 ・介護事業所がケアプランを紙ベースではなくシステムで連携することで、事務負担の軽減・費用の削減・転記誤り等の防止・個人情報のやりとりにかかるセキュリティ強化等を図ることにより、利用者支援等にかける時間および質が向上している状態						
	対象者（受益者）	・市内小学生（保護者含む） ・ケアプランのやりとりが生じる介護事業者。介護サービスの利用者。						
	現状・課題	・子ども世代が介護職について理解を深める機会はほぼなく、また、核家族化等により高齢者とふれあう機会も減少してしまっている。 ・数多くの介護事業所がケアプランを紙ベースでやりとりしており、紙からデータに転記入力する時間・印刷費・送料・個人情報の漏洩リスク等が生じてしまっている。そのため、職員が業務に追われ、ケアの質低下につながっている。						
	事業の概要	・慢性的な人手不足に陥っている介護人材の確保のため、子ども世代が介護職について理解を深めるきっかけを作ることを目的に、駅近くに市立のデイサービスセンターが入った総合福祉会館（ラポールひらかた）を介護職の魅力発信拠点ととらえ、デイサービスセンター指定管理者とも連携し、子ども世代の職業体験などを行う。 ・介護事業所のケアプランをデータで連携することにより、生産性やケアの質を向上し介護人材不足解消を行う。						
	年間の主な事務	・こども介護体験にかかる手続き ・市公式SNS発信及び広報での情報発信 ・全介護事業所へケアプランデータ連携システムの周知 ・受注者との調整						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.65人	0.15人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,997	1,231	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	4,997	1,231	—	—		
歳出	物件費計	1,980	10,450	—	—	10,470	99.8%
歳出計		6,977	11,681	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	750	9,220	—	—	9,220	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		750	9,220	—	—	9,220	
一般財源（物件費充当分のみ）		1,230	1,230	—	—	1,250	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 子ども向け介護職体験を実施する。	回	6 回	6 回	― 回	― 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル アウトプット①

説明	子どもたちが介護職についての理解を深め、高齢者にふれあう機会を得る。
指標	事業参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	75	80	80	80	人
実績	102	73	―	―	人
算出方法	事業参加者数				

ロジックモデル アウトプット②

説明	ケアプランデータ連携システムの導入にかかる説明会や伴走支援等の実施により推進される。
指標	事業所へ介入した件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	725	725	725	件
実績	―	725			件
算出方法	事業所介入件数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	子どもたちが介護職についての理解を深め、高齢者にふれあう機会を得る。
指標	参加者のうち介護職に魅力を感じた人数の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	70	70	70	70	%
実績	79	67	―	―	%
算出方法	介護職に魅力を感じた人数／参加者数				

アウトカム②

説明	枚方市内の全介護事業所においてケアプランデータ連携システムが活用される。
指標	ケアプランデータ連携システム活用事業所数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	700	700	700	件
実績	―	184			件
算出方法	枚方市内全介護事業所数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

子ども世代が介護や介助職種への興味や関心、知識をもち、介護業務の魅力を理解し、「将来なりたい職業」の一つとして認識するようになる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	介護の仕事に触れ、高齢者の介助などへ理解を深める場として、6回の職業体験を実施。
R7年度	介護の仕事に触れ、高齢者の介助などへ理解を深める場として、6回の職業体験を実施した。参加者のうち介護職に魅力を感じた人数の割合は、概ね目標値に近い結果が得られた。 また、令和7年度より「大阪府ケアプランデータ連携システムの活用促進モデル地域づくり事業補助金」を活用し、ケアプランデータ連携システムの導入支援を行うことで、ケアプラシステムの普及を促進し、介護事業所等の生産性向上を図る取組を実施した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	今後も大阪府等と連携を図りつつ、介護人材の確保に向けた取組を推進する。 また、令和8年度より「大阪府ケアプランデータ連携システムの活用促進モデル地域づくり事業補助金」を活用し、導入支援や導入後の活用支援を行い、令和8年度も導入後の活用について支援することで、介護事業所等の生産性向上を図る取組を行う。	R8年度方向性	拡充

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	拡充	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　990

事務事業名称		災害ボランティア推進事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部		課：　健康福祉政策課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	2.災害時に、迅速・的確に対応できるまち				性質	社会福祉	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2024（R6）年度　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	災害対策基本法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営及び災害ボランティア活動が円滑に実施されるよう備える。						
	対象者（受益者）	市民全般						
	現状・課題	災害が発生した際に、自身の力で生活再建ができない、高齢者や障害者等に対して支援を行う災害ボランティアが必要となるが、ボランティア登録者の高齢化が進んでいる。						
	事業の概要	枚方市地域防災計画に基づく「災害ボランティアセンター」の設置・運営および災害ボランティアリーダーの育成や研修実施を枚方市社会福祉協議会へ委託している。						
	年間の主な事務	・委託契約 ・枚方市ボランティア運営委員会への出席						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.03人	0.10人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出	内訳 正職員、再任用、任期付職員	231	821	—	—		
	内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
	内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
	内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計	231	821	—	—		
	物件費計	2,980	2,977	—	—	2,977	100.0%
歳出計		3,211	3,798	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
	府支出金	0	0	—	—	0	
	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
	市債	0	0	—	—	0	
	その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）		2,980	2,977	—	—	2,977	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 年度計画による研修等実施回数	回	14 回	18 回	― 回	― 回

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	市民や団体を対象とした研修等を実施する。
指標	研修や講座、災害ボランティアセンター設置シミュレーション訓練参加者数（延べ）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	人
実績	522	635	―	―	人
算出方法	年間参加者				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	災害時に備え、ボランティア登録者が増える。
指標	災害ボランティア登録人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	60	65	70	75	人
実績	60	79	―	―	人
算出方法	ボランティア登録人数（年度末）				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

災害ボランティアの必要性について市民の理解が深まり、災害ボランティア登録者が年々増加する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	能登半島地震が発災し、市民の災害への関心の高まりから、講座や研修への参加者人数は目標を大きく上回る結果となった。
R7年度	災害への理解を深め、支援の担い手を増やすことを目的として、現任研修や講座等を実施した。 市民の災害への関心の高まりから、講座や研修への参加者人数は目標を大きく上回る結果となった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	災害ボランティア登録者の高齢化が進んでおり、若年層を中心に災害への関心が高い方への周知啓発を行い、災害ボランティア登録者を着実に増やしていくことができる取組を実践していく必要がある。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	―	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　994

事務事業名称		福祉避難所指定促進等事業（高齢者）						
担当部署（R8年度機構）		部：　健康福祉部	課：　健康福祉政策課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	維持管理区分		
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち			性質	防災・安全		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	○		
	事業期間	事業開始：　2025(R7)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	災害対策基本法、災害救助法						
	関係附属機関等	—						
	関係補助金等	枚方市直接避難型指定福祉避難所備蓄物資等補助金　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	災害時に特別な配慮を要する要配慮者の避難先として福祉避難所を整備することで、要配慮者の生命や身体を保護し、安全安心な生活を確保する。						
	対象者（受益者）	身体等の状況が特別養護老人ホーム又は老人短期入所施設等へ入所するには至らない程度の者であって、一次避難所（要配慮者スペース）での生活において、特別な配慮を要する要配慮者（高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、難病患者、医療的ケアを必要とする者等）及びその家族。						
	現状・課題	災害発生時に、一次避難所（要配慮者スペース）では生活が困難な要配慮者を受け入れる福祉避難所の整備が必要。						
	事業の概要	災害時に特別な配慮を要する要配慮者の避難先として、主として介護保険法に基づくサービス提供を行う事業者に対して、福祉避難所の指定を促進する。 指定福祉避難所には、一次避難所（要配慮者スペース）での生活が困難であると市職員等によるトリアージで判断された要配慮者とその家族が避難する「トリアージ型指定福祉避難所」と、事前に受け入れ調整を行った事業者のサービス利用者とその家族が災害発生後、直接避難できる「直接避難型指定福祉避難所」の2種類とする。 「直接避難型指定福祉避難所」を運営する法人に対しては、直接避難対象者に適した備蓄物資・機材の整備費用の補助を行う。						
	年間の主な事務	・社会福祉施設等（主として介護保険法に基づくサービス提供を行う事業者）に対する制度説明 ・福祉避難所指定申請の受付、現地確認、指定決定、告示 ・直接避難対象者の決定 ・直接避難型指定福祉避難所備蓄物資等補助金の交						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	—	0.80人	—	—
再任用	—	0.00人	—	—
任期付職員	—	0.00人	—	—
会計年度任用職員	—	0.00人	—	—
特別職非常勤	—	0.00人	—	—
附属機関委員	—	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	0	6,567	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	0	6,567	—	—		
歳出 物件費計	0	4,566	—	—	18,200	25.1%
歳出計	0	11,133	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	0	—	—	0	
一般財源（物件費充当分のみ）	0	4,566	—	—	18,200	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 社会福祉施設等(主として総合支援法に基づくサービス提供を行う事業者)に対する直接避難型・トリアージ型指定福祉避難所の制度説明会実施回数	回	― 回	17 回	― 回	― 回
② 直接避難型指定福祉避難所に対する補助金申請受付数	件	― 件	3 件	― 件	― 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル アウトプット①

説明	指定福祉避難所の指定促進
指標	制度説明を行った施設

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	15	10	10	施設
実績	―	17	―	―	施設
算出方法	制度説明を行った施設				

ロジックモデル アウトプット②

説明	直接避難対象者が避難生活に必要とする物資等の備蓄
指標	補助金を交付した直接避難型指定福祉避難所(主として介護保険法に基づくサービス提供を行う事業者)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	5	5	5	施設
実績	―	3	―	―	施設
算出方法	補助金を交付した施設数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	要配慮者が安心して避難生活を送ることができる場所の確保
指標	直接避難型・トリアージ型指定福祉避難所の施設数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	15	22	29	施設
実績	―	17	―	―	施設
算出方法	指定決定を行った施設数 ※直接避難型・トリアージ型両方の指定決定を行った施設は1件として計上します。				

アウトカム②

説明	必要な物資・機材を備蓄することで直接避難対象者を受け入れる環境整備を図る
指標	直接避難型指定福祉避難所(主として介護保険法に基づくサービス提供を行う事業者)に交付した補助金額

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	9,100	9,100	9,100	千円
実績	―	4,566	―	―	千円
算出方法	補助金交付額				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

社会福祉施設等への制度説明の対象を拡充し、福祉避難所の指定を促進することで、災害時に要配慮者が安心して避難生活を送ることができる体制を整備する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	―
R7年度	指定施設数、補助金交付申請数ともに目標数を達成することはできなかった。災害発生時における要配慮者支援について、事業者側から制度の必要性等への理解は得られたものの、各施設の状況等を考慮した上で指定申請について慎重に検討されたことなどが要因の一つであると考えられる。今後も指定申請を促進するにあたっては、個別説明等丁寧な対応に努める必要があると考える。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	事業者に対する説明会の実施など指定促進に取り組むとともに、市との連絡体制の整備や各種マニュアルの整備など災害発生時に実効性のある要配慮者支援を行えるような体制づくりを進める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	―	―	**現状維持**	―	―